

平成30年度
全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析

市町村別の調査結果



平成30年9月
鹿児島県教育委員会

市町村別の調査結果

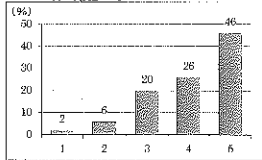
正答率分布グラフについて

- ※ グラフは、児童生徒の正答率分布グラフです。
- ※ 横軸は、正答率を5段階に分けて示しています。
1 : 0%~20%未満, 2 : 20%~40%未満, 3 : 40%~60%未満,
4 : 60%~80%未満, 5 : 80%~100%
- ※ 縦軸は、各段階の児童生徒数の割合を示しています。
- ※ ただし、正答者数を四捨五入して割合（整数値）としているため、若干の誤差が生じています。

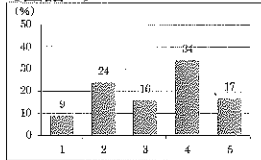
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

鹿児島市教育委員会

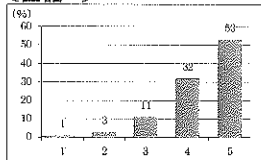
【小学校】
【国語A】



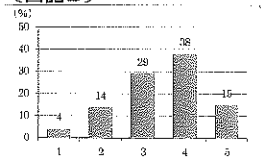
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



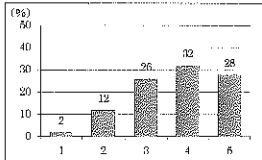
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は72%、B問題については51%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。また、B問題においては、二極化の傾向が見られる。
・目的に応じて必要な情報を捉えることや、話合いの参加者として、質問の意図を捉えることに課題がある。

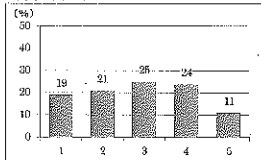
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は85%、B問題については53%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。
・段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てたり、話合いの話題や方向性を捉えたり、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。

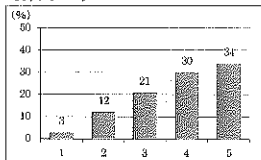
【算数A】



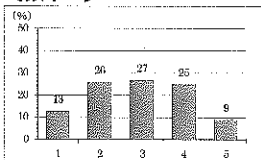
【算数B】



【数学A】



【数学B】



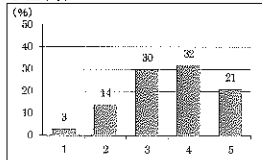
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は60%、B問題については35%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。また、B問題においては、下位層が若干多い。
・11に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことや、規則性を見だし、変化や対応の関係を基に合理的、能率的に処理することに課題がある。

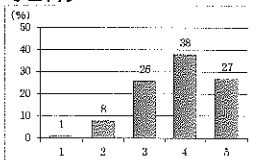
〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は64%、B問題については34%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。また、B問題においては、下位層が若干多い。
・絶対値や一次関数の意味の理解や、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。「知識」に関する問題は全国を上回ったが、「活用」に関する問題は下回っており課題である。
・複数の情報を関係付けながら、多面的に分析して考察することや、既習の内容や生活経験をものづくりや事物・現象の説明に適用することに課題が見られる。

〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られるが、上位層がやや多い。また、「知識」に関する問題は全国を上回ったが、「活用」に関する問題は下回っており課題である。
・要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画することや、光の反射の幾何光学的な規則性などの科学的な知識や概念を身の回りの事象に活用することに課題が見られる。

【改善策】

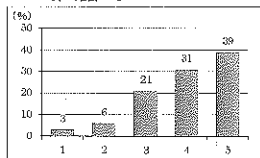
今後、本市の学力向上施策(「確かな学力」の育成)のうち、以下に示す事項について、重点として取り組んでいく。
○ 諸学力検査結果分析を各学校へ情報提供し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や個に応じた指導の充実を図らせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実がなされるよう見届けまでの指導を確実に行う。
○ 「市学力向上プログラム」の実践校の支援や指導・助言、管理職研修会、市教科別研修会等を充実させ、「分かる・できる」授業づくりを通して教職員の指導力向上を図る。
○ 管理職研修会、市教科別研修会等で、研究協力校等の取組例を紹介し、各学校で効果的な活用を促す。
また、以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。
【小学校】(国語科) ・ 目的に応じて、文章中や資料から必要な情報を見付けて、書き出したり、話し合ったりする活動の充実
・ 課題意識をもって意見を発表したり、質問をしたりする話し合い活動の充実
(算数科) ・ 問題を解決する過程で、数量の関係を捉え、数量の関係を図や数直線などに表す活動の充実
・ 規則性を見だし、条件に合う事柄について、適切に判断することができるようにする指導の充実
(理 科) ・ 収集した複数の資料から事実と考えを明確にして情報を読み取り、要点を整理したり関係付けたりして分析する活動の充実
・ 根拠のある予想や仮説を立てるために、既習の内容を想起させたり、互いの考えを検話し合ったりする活動の充実
【中学校】(国語科) ・ 段落が文章全体の中で果たす役割を捉えるために、段落相互の関係性を図式化したり、話し合ったりする活動の充実
・ 課題意識をもって意見を発表したり、質問をしたりする話し合い活動の充実
(数学科) ・ 新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論について検討し、それらを数学的に表現する活動の充実
・ 数学用語の意味や計算の理解など基礎的・基本的な知識及び技能をしっかりと定着させるための指導の充実
(理 科) ・ 見いだした問題に対して予想や仮説を立て、それを検証するために条件を制御した観察・実験を計画する活動の充実
・ 日常生活や社会の特定の場面で、理科で学習した知識・技能を活用して考えたり、説明したりする活動の充実

【様式1】

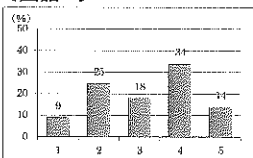
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

指宿市教育委員会

【小学校】
【国語A】



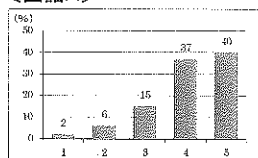
【国語B】



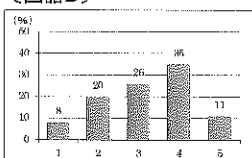
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題は4・5段階は70%であるが、B問題は48%であることから、基礎的・基本的な知識・技能は身に付きつつあるが、それを活用する力は十分ではない。
- 相手や目的に応じて自分が伝えたいことについて、事例を挙げながら筋道を立てて話し、目的に応じて必要な情報を捉えたりすること、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらから読むことに課題がある。

【中学校】
【国語A】



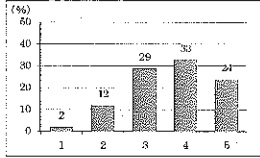
【国語B】



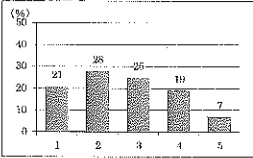
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題は4・5段階は77%である。一方、B問題は46%であることから、基礎的・基本的な知識・技能は身に付きつつあるが、それを活用する力は十分ではない。
- 古典に表れたものの見方や考え方を理解したり、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読みだしたりすることに課題がある。
- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書いたり、あらすじを捉えて書いたりする問題の無解答率が高い。

【算数A】



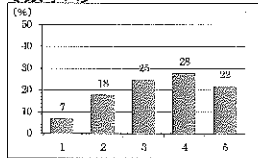
【算数B】



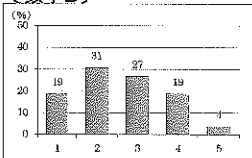
〈課題〉

- 5段階の分布状況では、A問題では中位層、B問題では下位層が多く、基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、それを活用する力の向上が課題となっている。
- 単位当たりの量や、小数の除法の意味についての理解が不十分である。
- 示された数量の関係を、根拠を明確にして記述することに課題がある。

【数学A】



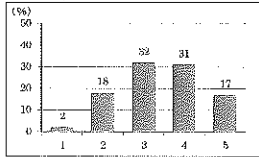
【数学B】



〈課題〉

- 5段階の分布状況では、1～3段階がA問題は50%、B問題は77%であり、基礎的・基本的な知識・技能及び活用する力ともに十分定着していない。
- 平面図形の基本的な性質や三角形の合同条件についての理解が不十分である。
- 問題解決の方法を数学的に説明したり、判断の理由を説明したりする記述式については、無解答率が高い。

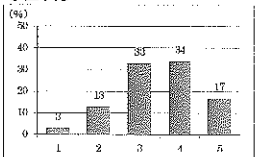
【理科】



〈課題〉

- 5段階の分布状況は、5段階の割合が少なく、中位層が多い。
- 実験結果をもとに分析・考察し、その内容を説明したり表現したりすることに課題がある。
- 複数の情報を関係付けて分析・考察することに課題がある。
- 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を水に溶かして体積が増えた食塩水に適用することに課題がある。

【理科】



〈課題〉

- 5段階の分布状況は、5段階の割合が少なく、中位層が多い。
- 自然の事象・現象に含まれる要因を取り出して整理し、条件制御し実験を計画することに課題が見られる。
- 化学変化に関する知識を活用して、化学変化を表したモデルを検討・改善し、原子や分子のモデルで説明することに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 学力向上推進校の指定による、学力向上に向けた指導主事の定期的な学校訪問と推進校の学力向上に向けた取組を支援する。
- 各学校に「学力向上プラン」を作成させ、課題解決に向けた具体的な目標や実践計画をもとに、年間を通して学力向上に向けた取組を支援する。
- 各学校に「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用を十分図らせるとともに、取組状況について確認及び指導を徹底する。
- 学校の依頼に応じて指導主事を派遣し、普段の授業等の課題解決に向けた指導を行う(指導主事クイック派遣)。
- 指宿市授業力向上事業(ITPUいぶすきたまはこプロジェクト)による「子供ができる・分かる授業づくり」の推進を図る。
- 「いぶすきたまはこ授業力向上リーフレット」「学びの羅針盤」を校内研修会等で積極的に活用する。

また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。

【小学校】(国語科)目的や意図に応じて、自分の考えを文章にまとめ、ペアやグループ・全体で発表する活動
(算数科)授業終了時の振り返り時間の確実な設定と、学習定着状況の見届けの徹底
(理科)実験・観察の結果を基に、考察した内容を文章にまとめ、グループや全体で発表する活動

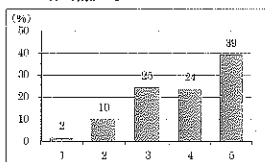
【中学校】(国語科)目的や意図に応じて必要な情報を収集し、根拠を明確にして自分の考えを記述し、説明し合う学習
(数学科)数量や図形の基礎・基本を習得させるために、数学的に説明するなど表現する活動
(理科)予想や仮説を立て、検証するための観察・実験を計画する学習活動

【様式1】

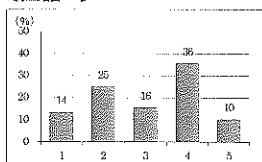
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

札幌市教育委員会

【小学校】
【国語A】



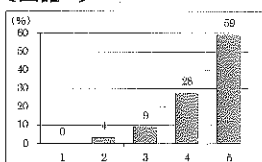
【国語B】



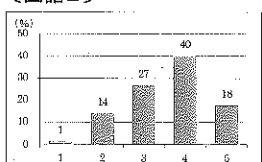
〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は63%であるが、B問題では46%である。基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。B問題の下位層の引き上げと上位層をさらに伸ばす必要がある。
・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめたり、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がある。

【中学校】
【国語A】



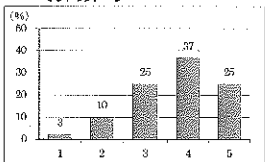
【国語B】



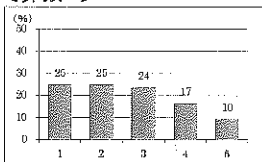
〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は87%であるが、B問題では58%である。基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。B問題の上位層をさらに伸ばす必要がある。
・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使ったり、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書いたりすることに課題がある。

【算数A】



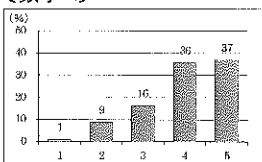
【算数B】



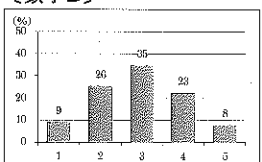
〈課題〉

・5段階の状況については、A問題の4、5段階は62%であるが、B問題では27%である。A問題の下位層は13%、B問題は50%である。基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。B問題の下位層の引き上げが必要である。
・数量の関係を的確に捉え、立式したり、日常生活の事象を、グラフの特徴をもとに、複数の観点で考察したり表現したりすることに課題がある。

【数学A】



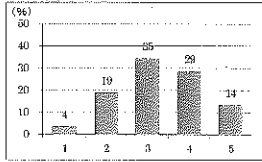
【数学B】



〈課題〉

・5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は73%であるが、B問題では31%である。B問題の低・中位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや数学的な結果を事象に即して解釈することを通して、成り立つ事柄を判断し、その理由を数学的な表現で説明することに課題がある。

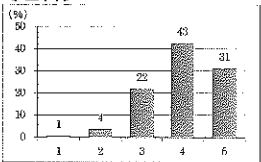
【理科】



〈課題〉

・5段階の分布では、4、5段階の児童が43%、3段階の児童が35%である。中位層を伸ばしていくことが必要である。
・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述したり、実験結果を基に分析し、問題を的確に捉え、まとめたりすることに課題がある。

【理科】



〈課題〉

・5段階の分布では、4、5段階の生徒が74%、2段階以下が5%である。中位層を上位層へ引き上げることが必要である。
・特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水の質量を求めることや天気図と日常生活の場面とを関連付けて気象現象を捉えることに課題がある。
・問題解決の知識・技能を活用して、自然の事象・現象の原因を指摘することに課題がある。

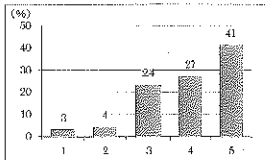
【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
○ 校内研究授業に、本市の指導主事が参加し、継続的な授業づくりの支援や指導・助言を行う。
○ 分析の視点(経年変化、誤答分析、質問紙結果との相関等)を学校に示し、課題の焦点化を図らせ、授業改善につながるよう指導・助言を行う。
○ 読学力検査結果を小・中学校間で情報を共有させ、小中が連携した改善策を講じさせる。
○ 「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用の徹底を図るとともに、定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させたり、指導計画を見直しをさせたりするなどの指導を行う。
○ 効果的な宿題の在り方について教職員に対して共通理解させ、家庭学習の充実を図らせる。
また、以下の事項を、管理職研修会や学校訪問等で指導し、各学校で取り組ませる。
【小学校】(国語科)目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができるような活動を積極的に取り組むように指導を行う。
(算数科)日常生活の事象を、グラフの特徴をもとに、複数の観点で考察したり表現したりする学習を充実させる。
(理科)より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する学習を充実させる。
【中学校】(国語科)場面に即した語句を活用したり、目的に応じて文章の内容を読み取ったりする学習活動が充実できるように指導を行う。
(数学科)数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて説明する学習を充実させる。
(理科)自然の事象・現象の原因として考えられる要因を全て挙げ、実験の計画を検討する学習を充実させる。

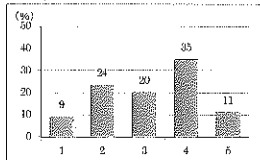
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

南さつま市教育委員会

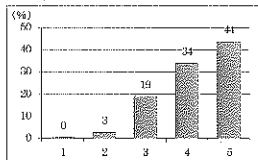
【小学校】
【国語A】



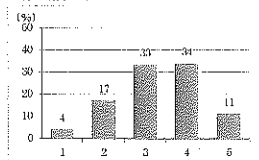
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



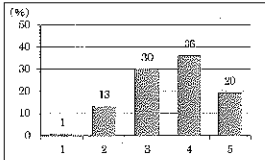
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の5段階は41%であるが、B問題では11%と、大きく減少している。基礎・基本が身に付いている児童に対し、活用する力を高めていく必要がある。
・話し合いの話題や方向を捉えて的確に話すことに課題がある。全ての教育活動において、話し合いの場を設定し、話題や方向を考えさせながら話し合わせる必要がある。

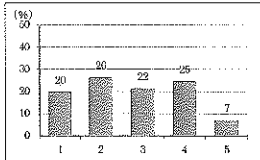
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題では4、5段階が78%であるが、B問題では45%と減少している。上位層の活用力を高める工夫が必要である。
・小学校と同じように、話し合いの話題や方向を捉えて的確に話すことに課題がある。小学校からの継続的な取組が必要である。
・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことに課題がある。

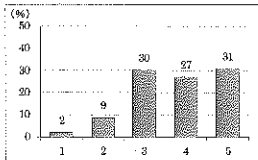
【算数A】



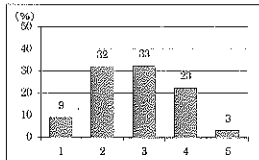
【算数B】



【数学A】



【数学B】



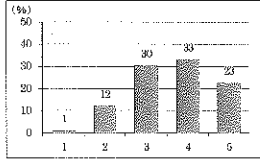
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の分布のピークは4段階にあるが、B問題では、2段階と4段階の二つのピークができています。中位層にいる児童の思考力等を高めていく必要があります。
・百分率を求めることや、2つの数量の関係を数直線上に表わすことなど、基礎・基本が身に付いていない。授業での確実な見取りと丁寧な補充学習が必要である。

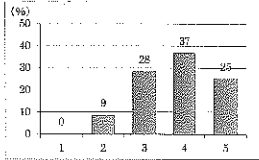
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題では3、4、5段階に同程度に分布し、B問題では2、3段階に同程度に分布している。基礎・基本がある程度定着している中上位層に対し、活用する力を高めていく必要がある。
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。自分の考えを説明する場を積極的に設定する必要がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況では、4段階に分布のピークがある。3、4段階にある中位層の児童の学力を高める必要がある。
・物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことが理解できていない。授業で学んだことを自然の事象・現象に適用することに課題がある。
・実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述することに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、4段階に分布のピークがある。3、4段階にある中位層の生徒の学力を高める必要がある。
・地学的領域の日本の天気の特徴に関する知識の定着に課題がある。
・習得した知識・技能を日常生活と関連した他の領域に活用することに課題がある。

【改善策】

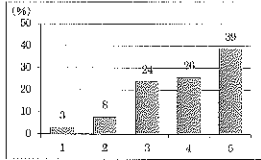
今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
○各学校において詳細に結果を分析させ、課題を焦点化させる。課題解決へ向けた取組は、年間指導計画に位置付けさせ、各学校で確実に実践する体制を整えさせる。
○学力向上推進委員会や校内研修等の機会を捉え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を積極的に進める。「ねらいを明確にした対話活動の在り方」や「学年間、学校種間の系統性を意識した学びの充実」など授業改善の視点を具体的に指導し、教員の指導力の向上を図る。
○「かこしま学力向上支援Webシステム」上の単元別評価問題を積極的に活用させる。授業の補充学習や家庭学習に加え、土曜授業の「学びを深める日」や朝の活動等で計画的に取り組ませる。理解が不十分な問題については、繰返し取り組み、確実な見届けを行うよう指導する。
また、各学校において以下の事項を重点的に取り組むように、管理職研修会や教務主任会等の機会を利用して指導する。
【小学校】(国語科) 話し合い活動において、立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合いができるように指導する。
(算数科) 問題の解き方や考え方を自分の言葉で記述させたり、お互いに説明させたりする時間を設定する。
(理科) 実験結果を分析して考察し、その内容を記述させる学習を積極的に取り入れる。
【中学校】(国語科) 話し合いにおいて話題や方向を捉えて的確に話すことができるように話し方の指導を行う。
(数学科) 数学的な表現を用いて説明する活動を重視する。
(理科) 習得した知識・技能を日常生活と関連付けて考えさせる指導を行う。

【様式1】

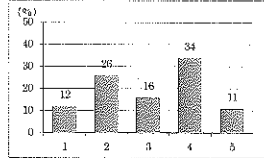
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

南九州市教育委員会

【小学校】
【国語A】



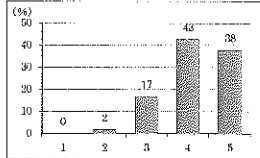
【国語B】



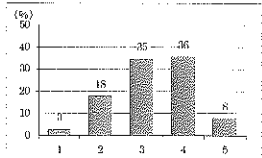
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階の合計は65%であり、全体的に右肩上がりである。しかし、B問題は2段階は26%、4段階は34%であり、2極化が見られる。基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は定着していない。
・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書いたり、話し相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べたりしながら考えをまとめることに課題がある。

【中学校】
【国語A】



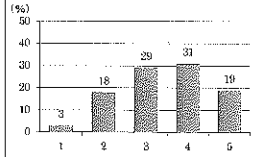
【国語B】



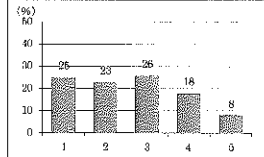
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階の合計は81%である。一方、B問題では4、5段階の合計は44%であり、A問題のおよそ半分であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は全体的に定着していない。
・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えたり、目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書いたりすることに課題がある。

【算数A】



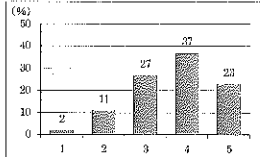
【算数B】



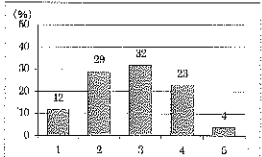
〈課題〉

・5段階の分布状況では、算数A、Bともに5段階の児童が少なく、A問題は中位層、B問題は下位層が多い。
・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目して解釈し、記述すること、棒グラフと帯グラフから読み取ったことを、適切に判断することに課題がある。さらに、示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することも課題である。

【数学A】



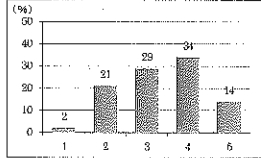
【数学B】



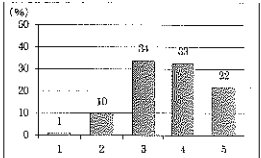
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の3、4段階は64%であり、中間層が多く。一方、B問題の5段階は4%と極端に低く、逆に2、3段階は61%であり、全体的に底上げを図る必要がある。
・不等式、一次関数、確率に課題がある。また、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明したり、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明したりすることに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況では、2段階は21%、3、4段階は63%あり、下位層・中位層のレベルアップが必要な状況である。
・実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述したり、太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できたりすることに課題がある。さらに、物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用することも課題がある。

〈課題〉

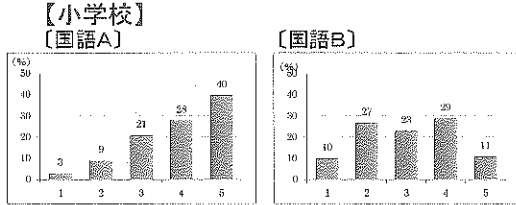
・5段階の分布状況では、3、4段階は67%であり、中間層のレベルアップが必要な傾向が見られる。
・風向きの観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用したり、濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量のパーセント濃度にもを指摘することに課題がある。さらに、シミュレーションの結果について考察した内容を検討・改善し、台風の進路を決める条件を指摘したりすることにも課題がある。

【改善策】

- 学力向上を目指した授業の流れを示した「南九州市スタンダード」に沿った授業を推進していく。研究授業に際しては、学習指導要領から指導主事が関わり授業の質の向上を目指す。その際、問題解決型の「めあて」と「まとめ」の整合性のある授業実現の見届けを管理職と共に行う。
 - 社会・理科については、市教委が中心となり、「南九州市スタンダード」に沿った学習の進め方を具体的に示し、各校で行うよう取り組んでいる。
 - 8月・2月に、鹿児島大学の教授等を招聘し、校長・教務主任・研修係を対象にした「校内研修のあり方」研修会を実施している。授業研究を、全校体制で取り組むことの有効性を実感させ、より効果的な校内研究体制の構築を、今後も目指していく。
 - 上・下位の各層を伸ばす個に応じた学習活動を充実させるために、「かごしま学方向上支援Webシステム」を積極的に活用するように、各学校への指導を徹底し、PDCAサイクルの充実に図られているか、見届けまで確実に実行する。
- また、以下の項目を、管理職研修会で指導し、各学校で取り組ませる。
- 【小学校】(国語科) 新聞の活用を促し、記事に対する考えを書かせたり、目的や意図に応じ、表現方法を考えさせたりする指導を行う。
(算数科) 日常生活の中から、メモの情報とグラフを関連付けて記述したり、様々なグラフから傾向を読み取ったりする指導を充実させる。
(理科) 実験を充実させ、結果をもとに分析して考察し記述したり、自然現象と教科内容を関連させたりする授業づくりに努める。
 - 【中学校】(国語科) 日頃から、文章の展開に即して情報を整理したり、目的に応じて文の構成を考えて文を書いたりする学習活動を取り入れる。
(数学科) 不等式、一次関数、確率を重点にしつつ、事象を数学的に解釈し事柄が成り立つ理由を説明する指導を行う。
(理科) 風向きの観測方法や食塩水の問題等、日常生活の現象と教科内容を関連させた授業づくりに努める。

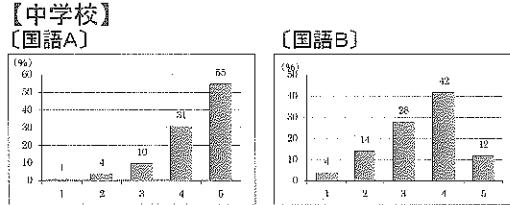
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

いちき串木野市教育委員会



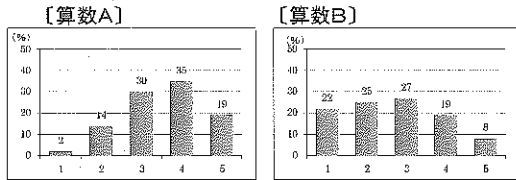
【課題】

- 5段階の分布状況について、4、5段階はA問題は68%である。一方、B問題では40%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それらをもとに活用する力については、定着が十分ではない。
- 話し手の意見と比べるなどして考えをまとめたり、内容の中心を明確にして書いたりする問題の正答率が低かった。
- 文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読み取る問題の無解答が1%と多かった。全体的な傾向として、記述に関する問題への無解答が高くなっている。



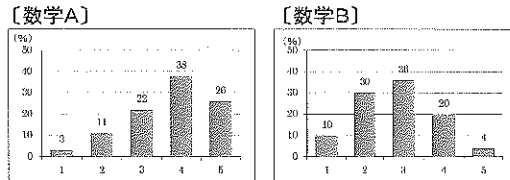
【課題】

- 5段階の分布状況について、4、5段階がA問題は86%であるが、B問題は54%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それらをもとに活用する力については、定着が十分ではない。
- 内容を整理して書いたり、文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えたりする問題の正答率が低かった。
- 必要に応じて質問したり、相手に的確に伝えるように、あらずしを捉えて書く問題の無解答が10%と多かった。全体的な傾向として、記述に関する問題への無解答が高くなっている。



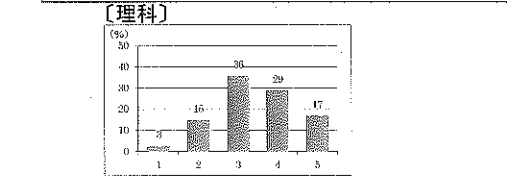
【課題】

- 5段階の分布状況について、A問題は3～5段階が84%であり、基礎・基本は身に付いているが、5段階を更に増やしたい。また、B問題では1、2段階が47%と最も多く、活用する力が身に付いていないと言える。
- メモの情報とグラフを関連付けながら記述したり、資料から読み取ったりする問題の正答率が低かった。
- 文章や図、グラフ等を使って説明することが課題である。



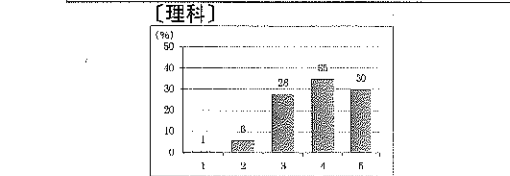
【課題】

- 5段階の分布状況について、A問題は4、5段階が64%であり、基礎・基本はある程度身に付いていると言えるが、5段階を更に増やしたい。また、B問題は1～3段階で76%を占めており、活用する力が身に付いていない。
- 計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明したり、問題解決の方法を数学的に説明したりする問題の正答率が一桁であることが課題である。



【課題】

- 5段階の分布状況について、3～5段階が占める割合が82%と学習内容の定着が図られている。
- 実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述する問題や食塩を水に溶かしたときの全体の重さに関する問題の正答率が低かった。
- 実験を通して導きだす結論を書く問題の無解答率が8%と高かった。
- 全体的な傾向として、記述に関する問題への無解答が高くなっている。



【課題】

- 5段階の分布状況について、3～5段階が占める割合が93%と学習内容の定着が図られている。
- 問題解決のための方法を論じたり、書いたりする問題の正答率が低かった。
- すでに学習した内容から新たな問題を見出す問題については、無解答率が22%と高かった。
- 全体的な傾向として、記述に関する問題への無解答が高くなっている。

【改善策】

○ 今後、以下に示す事項について、本市の学方向上策の重点として取り組んでいく。

【全 体】(各教科) 追究する課題や児童生徒に身に付けさせたい力を明らかにして、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を図る。

- 1単位時間の授業の中で、個別の課題追究の時間の確保や、個別の補充学習等、個に応じた指導の充実を図る。

【小学校】(国語科) 自身の意見と比べるなどして考えをまとめることや目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く学習活動の充実

- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む学習活動の充実

(算数科) 資料とグラフ、表など関連付けたり、説明を書いたりする学習活動の充実

- 事象を数学的に処理したり、図形や式・数値の特徴を踏まえて根拠を基に説明したりする学習活動の充実

(理 科) キーワードを活用し結果をまとめたり、実験結果を自力でまとめたりする学習活動の充実

- 実験結果を比較したり、整理したりできるような板書の工夫とICT機器を活用しながら表現したり、説明したりする学習活動の充実

【中学校】(国語科) 内容を整理して書いたり、文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えたりする学習活動の充実

- 必要に応じて質問したり、相手に的確に伝えたりできるような対話や交流を取り入れた学習活動の充実

(数学科) 図、グラフや資料などを使って説明するなど表現活動を取り入れた学習活動の充実

- 最後までじっくり考えることができる問題解決の時間を確保した学習活動の充実

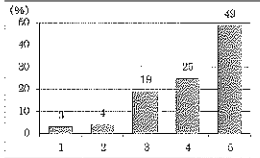
(理 科) 記述に慣れさせるために、活用する力を問う発問を取り入れた学習活動の充実

- 考えや予想などを自分の言葉で説明することができる場を設定した学習活動の充実

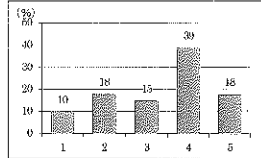
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

日置市教育委員会

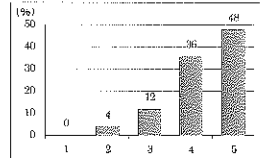
【小学校】
【国語A】



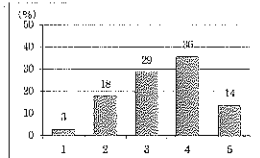
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



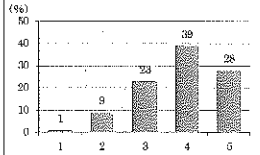
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題においては5段階の割合が高く、基礎的・基本的事項について指導の充実が図られていることが分かる。しかし、B問題においては、4段階の割合が高いが、1、2段階の割合も高くばらつきがあり、個人差が大きい傾向が見られる。
・特に、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書くことに課題が見られる。

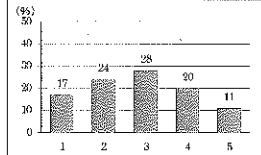
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題において4、5段階の割合が高く、基礎的・基本的事項について指導の充実が図られていることが分かる。B問題においては、ばらつきが見られるので、個人差に対応した指導による底上げが必要である。
・特に、目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことに課題が見られる。また、相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題については、無解答率が高い。

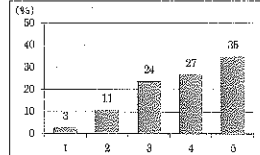
【算数A】



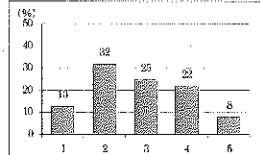
【算数B】



【数学A】



【数学B】



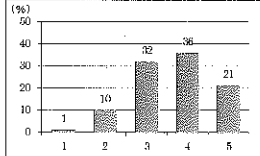
〈課題〉

・5段階の分布については、A問題の4、5段階の割合が高いことから基礎的・基本的事項は身に付いているが、B問題では1～2段階の割合が高く、個人差が大きい傾向があり、活用方に課題が見られる。
・特に、示された数量を関連付け、根拠を明確にして理由を記述することに課題が見られる。

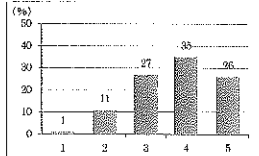
〈課題〉

・5段階の分布状況については、数学A・Bともに1～3段階への分布も見られることから、定着の不十分な生徒へのきめ細かな指導が必要である。B問題は下位層の割合が高く、上位層の割合が低いことから、上位層の伸び悩みの傾向が見られる。
・特に、与えられた情報から必要な情報を選択し的確に処理することや、数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。また、説明する問題については、無解答率が高い。

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況については、3～5段階の割合が高いことから基礎的・基本的事項は身に付いているが、1～2段階の割合も見られるので、個人差に応じた指導を徹底する必要がある。
・特に、より妥当な考えをつくりだすために、実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述することに課題が見られる。

〈課題〉

・5段階の分布状況については、小学校と同様に、3～5段階の割合が高いことから基礎的・基本的事項は身に付いているが、1～2段階の割合も見られるので、個に応じた指導を徹底する必要がある。
・特に、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の過程で知識・技能を活用することに課題が見られ、理由を説明する問題については、無解答率が高い。

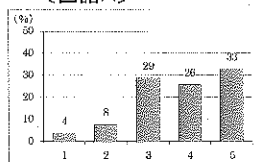
【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
○「のびゆくひおきっ子Ⅱ」で、学びの系統性・連続性を重視した指導法改善、児童生徒が課題解決に向けて主体的に学びを深めていくための授業づくり、家庭や地域と連携した読書活動の推進などに取り組んでいく。
○個人差に応じたきめ細かな指導の徹底や授業と家庭学習との連動、「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題を活用した「今週の1問」への継続的な取組により、学力の確実な定着を図らせる。
また、以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
【小学校】
(国語科) 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして書いたり、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読みだす学習活動
(算数科) 見通しをもち筋道を立てて問題を解決したり振り返ったりする学習活動や、学んだ知識やよきまりを使って応用し解決していく学習活動
(理科) 主体的に見通しをもって実験し、結果を基に分析し、考察する学習活動
【中学校】
(国語科) 目的に応じて文章を読み、内容を整理したり、相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書いたりする活動
(数学科) 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理したり、数学的な表現を用いて説明したりする学習活動
(理科) 知識、技能を確実に定着させ、それらを活用して課題を解決したり、結果を考察したり、理由を説明したりする学習活動

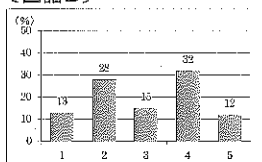
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

薩摩川内市教育委員会

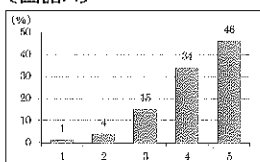
【小学校】
【国語A】



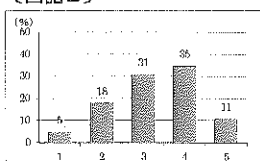
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



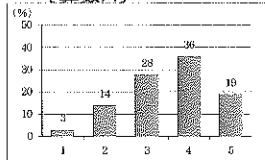
〈課題〉

- ・5段階の分析状況から、国語Aは基礎基本が概ね定着しているといえる。国語Bは散らばりが広いことから、上位層と下位層の二極化が見られる。
- ・複数の資料の内容を関係付けて理解したり、表現したりすることに課題がある。
- ・目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書いたり、自分の考えを明確にしながら読みだすことが不十分である。

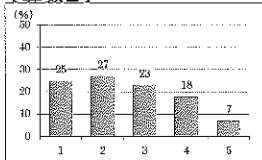
〈課題〉

- ・5段階の分布状況から、国語Aは基礎基本が定着してきているといえるが、国語Bについては、5段階の割合が11%であることから活用する力が、やや不十分であると言える。
- ・目的に応じて文章を読む際に、情報を整理して内容を的確に捉えることが不十分である。
- ・伝えたい事実や事柄が分かりやすく伝わるように書くことに課題がある。

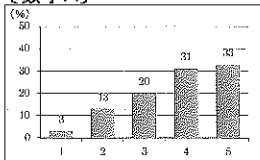
【算数A】



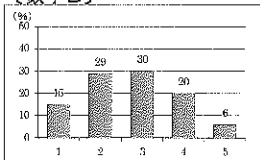
【算数B】



【数学A】



【数学B】



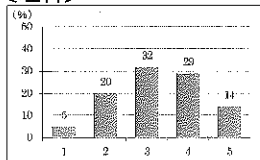
〈課題〉

- ・5段階の分析状況から、算数Aは段階3、4の割合が64%であり、この中間層をどのように伸ばしていくが課題と言える。算数Bについては、下位層と中間層の割合が大きい。活用する力を伸ばしていく必要がある。
- ・日常生活の問題の解決のために、複数の情報を解釈し関連付けて論理的に考察し、判断の理由について根拠を明確にして説明することに課題がある。

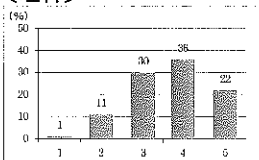
〈課題〉

- ・5段階の分析状況から、数学Aについては段階4、5の割合が64%であり、数学Bでは26%である。このことから、基礎・基本についてはおおよそ身に付いているが、活用する力は十分定着しているとは言えない。小学校算数同様、活用する力を伸ばしていく必要がある。
- ・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、他教科と比較し、段階1、2の割合が多くなっており、これらの段階にある子供たちを伸ばしていく取組が必要がある。
- ・予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、実験結果をもとに自分の考えを改善したりすることに課題がある。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況から段階5の割合が22%であることから、上位層を更に増やしていく取組が必要がある。
- ・観察・実験の結果にもとづいて、自分の考えや他者の考えを検討して改善することに課題がある。
- ・探究の過程を振り返り、新たな疑問をもつことに課題がある。
- ・変える条件に伴って変わってしまう条件について検討し、観察・実験を改善することに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上策実施の重点として取り扱っていく。

[小学校] (国語科) ・得られた情報の中から目的や意図に応じて適切な内容を選択したり、関係付けて捉えたりすることや、情報の何をどのように取り上げて、詳しく書けば効果的であるかを整理して書くといった言語活動の充実
(算数科) ・日常生活の中で、主体的に問題を見だして情報を収集し、表やグラフなどに整理して考察したり、考察した結果から新たな問題を見いだし、情報を収集し表やグラフなどに整理し直して考察したりすることができるようにする指導の工夫
(理科) ・問題解決の様々な場面で、自分の考えを表現したり、見直したりするなどの話し合いが充実するような指導の工夫
・予想したことや予想が確かめられた場合に得られる結果の見通しを話し合うことができるような指導の工夫

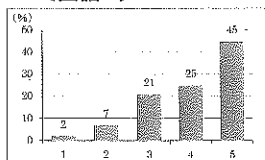
[中学校] (国語科) ・目的や意図に応じて、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて内容を把握するような指導の工夫
・分かりやすい説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容にふさわしい語句を選んで描写を工夫したりする言語活動の充実
(数学科) ・問題解決のために表した表、式、グラフをどのように用いればよいか説明し合う場面を設定し、検討する活動の充実
・文字式や言葉を用いて解決するための見通しをもち、根拠を明らかにする活動の充実
(理科) ・日常生活や社会の特定の場面で、理科で学習した知識・技能を活用する学習活動の充実や学習内容に関連した自然の事物・現象や科学技術などを考えたり説明したりする学習活動の充実

【様式1】

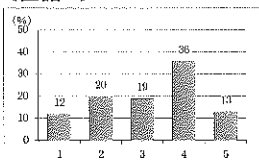
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

さつま町教育委員会

【小学校】
【国語A】



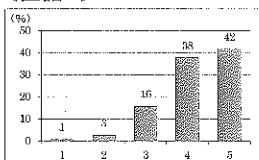
【国語B】



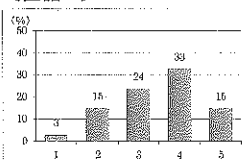
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は70%で、B問題は49%である。昨年度と比較すると、A問題は16%減少し、B問題は10%増加している。基礎的・基本的な内容の確実な定着と、活用する力の更なる向上が求められる。
・話し合いの参加者として質問の意図を捉えたり、目的や内容に応じて内容の中心を明確にして詳しく書いたりすることに課題がある。

【中学校】
【国語A】



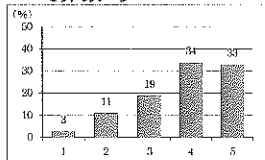
【国語B】



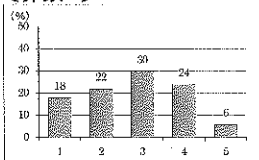
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は80%で、B問題は48%である。昨年度と比較すると、B問題が26%減少している。活用する力の育成が依然として大きな課題である。
・目的に応じて文章を読んで内容を整理して書いたり、登場人物の言動の意味を考えて内容を理解したりすることに課題がある。

【算数A】



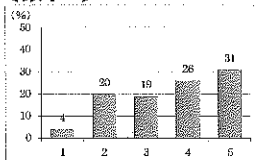
【算数B】



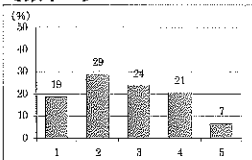
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は67%で、B問題は30%である。昨年度と比較すると、A問題が24%減少している。活用する力の育成が依然として課題であるが、基礎的・基本的な内容の定着についても課題となってきた。
・複数の情報を関連付けて論理的に考察し判断の理由を説明したり、事象を観察して規則性を見いだす条件に合う事柄について適切に判断したりすることに課題がある。

【数学A】



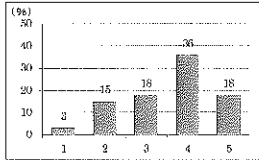
【数学B】



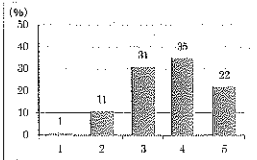
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は57%で、B問題は28%である。特に、B問題では、1、2段階が48%と、昨年度に比べてこの層が13%増えている。基礎的・基本的な内容及びそれを活用する力とも引き続きの課題であり、更なる向上が必要である。
・事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明したり、証明を振り返り、新たな性質を見いだしたりすることに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階は54%とほぼ全国並みだが、5段階だけを見ると、全国より3%低い。
・主として「知識」に関する問題では、全3問で全国より平均正答率が高いが、主として「活用」に関する問題では、全13問中10問で全国を下回っていることから、活用する力の育成が課題である。
・実験結果をもとに分析し、問題に正対したまとめをすることに課題がある。

〈課題〉

・5段階分布状況では、4、5段階は57%で、全国より7%低い。
・主として「知識」に関する問題では、全11問中5問で全国より平均正答率が高いが、主として「活用」に関する問題では、全16問中13問で全国を下回っていることから、活用する力の育成が課題である。
・地震に関する知識を身に付け、防災や減災に生かしたり、問題解決の知識・技能を活用して自然の事物・現象の原因を指摘したりすることに課題がある。

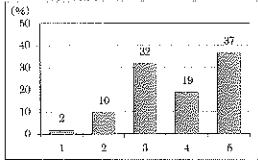
【改善策】

今後、以下の内容について、本町の重点的な学力向上施策として取り組んでいく。
1 校内研修や研究授業、公開研究会などにおいて、町教委指導主事等が共通理解の下、授業改善のポイント等を指導していく。特に、ラスト10分の充実に向けては重点的に指導する。また、各教科における改善の取組については、管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
【小学校】(国語科) 目的や相手、内容に応じて、中心を明確にして詳しく書く活動に取り組ませる。
(算数科) 判断の理由や根拠を明確にしながら説明させる活動に取り組ませる。
(理科) 実験結果を事実としての確に捉え、事実から解釈したことを説明させる活動に取り組ませる。
【中学校】(国語科) 目的に応じて文章を読んだり、内容を整理して書いたりする活動に取り組ませる。
(数学科) 筋道立てて考えた過程を振り返り、根拠を明確にして説明する活動に取り組ませる。
(理科) 習得した知識・技能を日常生活と関連した他領域に活用し、自然の事物・現象を多面的、総合的に捉える活動に取り組ませる。
2 平成28年度から町内全小・中学校で取り組んでいる「さつまタイム」(帰りの会の時間に、その日の家庭学習の内容や時間を自分で計画を立てる取組)を確実に実施するとともに、その内容の充実を図る。
3 「鹿児島ベーシック」「鹿児島チャレンジ」を対象の全児童生徒に印刷・配布し、各学校にて個別指導を行う。また、「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用についても各学校への指導を徹底する。

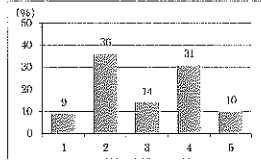
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

阿久根市教育委員会

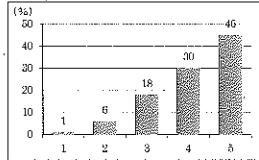
【小学校】
【国語A】



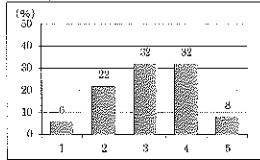
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



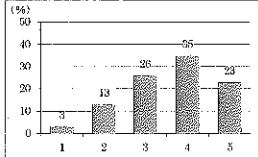
〈課題〉

- 5段階分布状況について、2、3の段階の比率が高い。また、A問題では5の段階が、B問題では4の段階が多く、二極化が見られる。
- 特に、A問題の「読むこと」以外は、低い傾向にあり、中でも「書くこと」は低い。文章全体の構成を考える学習や、他の作品と比較した上で良いところを書くことについて定着が不足している。

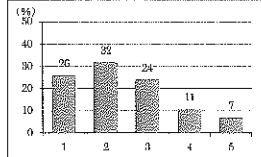
〈課題〉

- 5段階分布状況では、2、3の段階の比率が高い傾向がある。
- A問題では、言語に関する問題である漢字を正しく書く、文脈に沿った語句を選択する、歴史的仮名遣いを直すなどの基礎的・基本的な言語事項の定着が不十分である。
- B問題では、話の展開に応じた質問を選択するなど、「話す・聞く」に関する問題の課題が大きい。

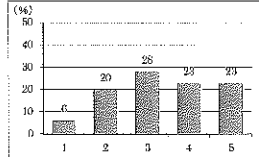
【算数A】



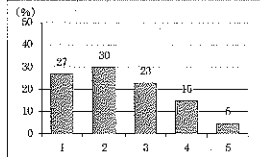
【算数B】



【数学A】



【数学B】



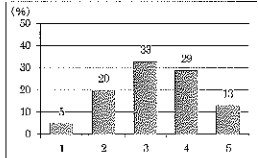
〈課題〉

- 5段階分布状況について、B問題は、2の段階が一番高く、左寄りの山なりになっている。
- 示された情報や考え方を解釈して表に整理する、時間を求める、理由を記述するなどの問いに対する考えが定着していないなど、B問題の課題が大きい。

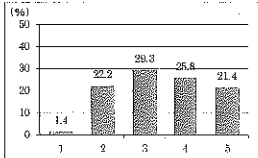
〈課題〉

- 5段階分布状況について、A、B問題ともに、2や1の段階が一番高い左よりの山なりになっている。
- A、B問題の全ての問題において、「知識・理解」に該当する問題や「数学的な技能」に関する問題が定着していない。
- 1の問いにある数学的な言語の理解不足や簡単な計算も誤答している傾向があり、基礎的・基本的な内容の定着が不十分である。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- 5段階分布状況について、1や2の段階の比率が高い。また、3の段階が一番高い山なりになっている。
- 主に「活用」に関する問題の科学的な思考力・表現力等が定着していない。
- 人の腕が曲がる仕組みを模型で説明する内容を適切に選択したり、目的に応じて観察する装置の置く場所を選択したりするなど、条件を踏まえた中で選択する力が不十分である。

〈課題〉

- 5段階分布状況について、2や3の比率が高い。また、2、3、4段階の割合がほぼ同じ状態であり、左よりになっている。
- 主に「知識」に関する問題の中の「知識・理解」を解決する力が定着していない。
- 関連する問いが続く中で、はじめの問いでの誤答が次の問いの誤答や無解答につながっており、思考を深める活動が定着していない。

【改善策】

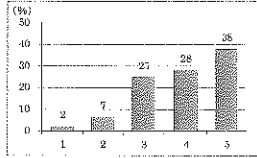
- 1 課題の分析、考察
7月末の結果を受けて、各学校へ分析シートを配布し、国語、算数・数学、理科の全体傾向、観点別傾向を分析するとともに、結果発表後の学校での取組計画を提出させる。
 - 結果を教育課程に記入したことの確実な見届け
 - 課題のある単元(題材)の事前の指導及び指導の状況把握、丁寧な授業参観
 - かこしま学力向上支援Webシステムの繰り返し活用
- 2 各学校への継続的な指導
研究授業、授業研究における指導助言において、その時間についての指導だけでなく、日々の指導でのポイントも指導していく。
特に、児童生徒の考えを引き出す授業展開の継続や、基礎的・基本的事項の徹底した繰り返し学習などについてを重点的に指導する。
 - 【小学校】(国語科) 文章の構成を見直す活動を重視するなど、書く活動に関する指導の見直しを図る。
 - (算数科) 活用する力を問う問題への継続的な取組を図る。
 - (理科) エネルギー、生命に関する領域の指導の改善を行う。学習したことを活用して思考する場面の充実を図る。
 - 【中学校】(国語科) 話す・聞く内容の指導の工夫を図る。特に、話合いの場面の充実を図る。
 - (数学科) 知識や技能の定着を図るための演習を繰り返す。
 - (理科) 探究する楽しさ、学ぶ喜びを感じられるような授業展開を意識する。知識の定着を図る。

【様式1】

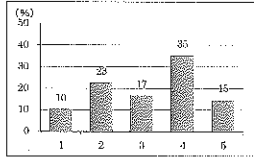
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

出水市教育委員会

【小学校】
【国語A】



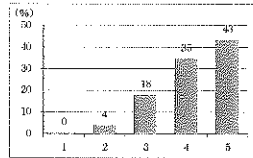
【国語B】



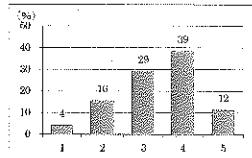
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は66%であるが、B問題では、50%である。基礎・基本については概ね身に付いているが、活用する力については十分とは言えない。活用については、下位層が多い傾向がある。
・漢字などを正しく書く力は付いているが、目的に応じて必要な情報を捉えることや、条件に沿った記述に課題がある。

【中学校】
【国語A】



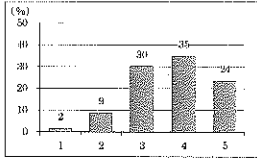
【国語B】



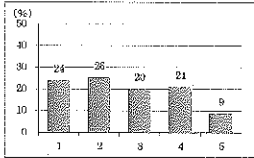
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は78%であるが、B問題では51%であることから、上位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
・漢字や語句の定着や、語の論理的な構成や展開などを注意して読むこと、文章とグラフの関係を考えながら内容を捉えることに課題がある。

【算数A】



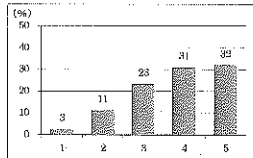
【算数B】



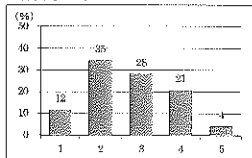
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は、59%であるが、B問題は5段階の層が少ない。基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分でない。
・知識・理解や計算などは、高い傾向があるが、B問題については、言葉や式を用いて記述する問題が弱い。
・示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることや、結果を表にまとめることなどに課題がある。

【数学A】



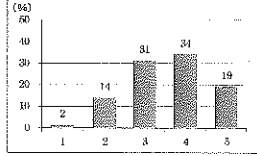
【数学B】



〈課題〉

・5段階の分布状況から、数学Aは、4、5段階の生徒が63%であるが数学Bは、25%である。特に、B問題の5段階は、低くなっていることから、上位層を伸ばしたい。
・知識・理解や計算などは、高い傾向があるが、事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明できるようにすることや、付加された条件の下で、新たな事柄を見出し、説明することなどに課題がある。

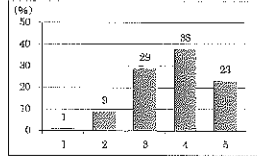
【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況から、4、5段階の児童は、53%である。中位層が多く、5段階の上位が少ない傾向にある。
・実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することや、より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察することに課題がある。
・学んだことをもとにした、ものづくりへの適用に課題がある。

【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況から、4、5段階の生徒は、61%である。中位層が多く、5段階の上位が少ない傾向にある。
・光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することや、天気図と日常生活の場面とを関連付けて気象現象を捉えることなどに課題がある。
・探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見出し、探究を深めることについて課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り組んでいく。
○ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指し、見通しをもち、深い学びを実現する対話の在り方を意識させた授業づくりを行わせる。
○ 研修会やモデル授業づくり、「学びの活性化」推進プロジェクト実践校への指導主事等による支援等を通して、教師の授業力向上を図る。
○ 授業において、条件に沿って書かせる活動や、視点を明確にした話し合い活動を実施する。
○ 自学自習力の習慣づくりや、予習、復習など授業とつながる家庭学習を目指すために、保護者と連携した家庭学習の充実を図らせる。また、「かこしま学力向上支援Webシステム」の評価問題も補充指導だけでなく家庭学習でも活用するよう指導する。

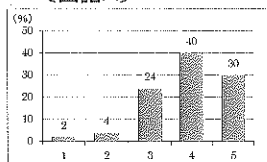
その他、以下の点を、特に改善を要する内容とし、管理職研修会や学力向上プロジェクト委員会で指導し、取り組ませる。
【小学校】(国語科) 複数の資料やグラフを活用させながら必要な情報を捉えさせたり、根拠や叙述を明確にした考えを書かせたりする。
(算数科) 対話の中で、複数の情報を解釈したり、説明に必要な要素を考えたりしながら、言葉や式を用いて記述ができるようにする。
(理科) 実験結果の見通しをもたせながら、解決の方向性を構想したり、実験結果を基にして、より妥当な考えに改善させたりする。
【中学校】(国語科) 漢字や語彙の定着を図らせたり、段落の役割や文章の構成を常に意識させて表現の効果について考えさせたりする。
(数学科) 資料を基に、必要な情報を適切に選択させたり、事象を数学的に解釈し、その根拠を説明させたりする。
(理科) 自然の事象・現象から問題を見出したり、自分や他者の考えを検討して改善させたりする活動させたりする。

【様式1】

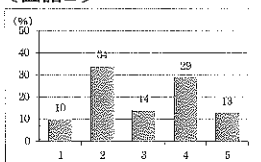
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

長島町教育委員会

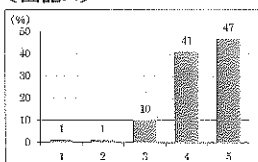
【小学校】
【国語A】



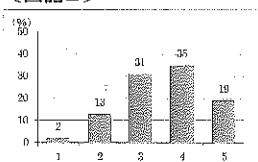
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



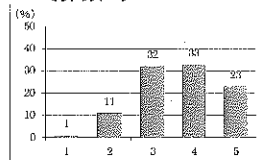
〈課題〉

- ・A問題は4, 5段階が70%であるが, 5段階の割合が少ないため, 中・上位層を更に伸ばしていく必要がある。
- ・B問題については, 4, 5段階が42%であり, 活用する力を高めるとともに, 全体的な底上げを図る必要がある。
- ・身に付けた知識を活用することともに, 目的や意図に応じて文章全体の効果を考えること, 内容の中心を明確にして詳しく書くこと, 複数の本や文章を選んで読むことに課題がある。

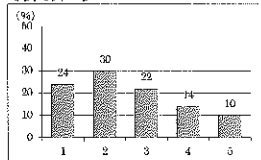
〈課題〉

- ・A問題は4, 5段階が88%であり, 基礎的・基本的事項は概ね定着が図られているが, B問題については, 54%である。活用・表現する力を伸ばすとともに, 中・下位層の底上げを図っていく必要がある。
- ・文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉えること, 文章の構成や展開について自分の考えをもつこと, 登場人物の言動の意味を考え, 内容の理解に役立てることに課題がある。

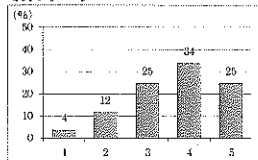
【算数A】



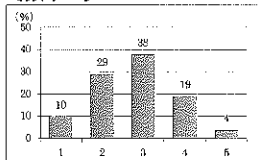
【算数B】



【数学A】



【数学B】



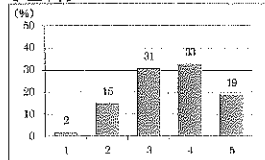
〈課題〉

- ・A問題は4, 5段階が56%であり, 基礎的・基本的事項の定着に課題がある。
- ・B問題については, 4, 5段階が24%であり, 中・下位層の全体的な底上げを図る必要がある。
- ・情報とグラフを関連付けて解釈すること, 示された考えを解釈し, 示された表現方法を適用して書くこと, など, 数学的に思考し, 表現することに課題がある。

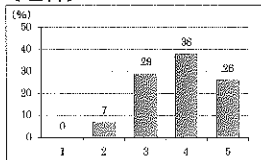
〈課題〉

- ・A問題は4, 5段階が59%であるが, B問題は23%であり, 基礎的・基本的事項の定着だけでなく, 活用する力に課題が見られる。B問題については, 中・下位層の生徒の割合が高く, 全体的な底上げを図る必要がある。
- ・確率について理解し, それを用いて考察し表現すること, 文字を用いた式で数量及び数量の関係性を捉え説明すること, グラフから必要な情報を読み取り, 事象を数学的に解釈することに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・4, 5段階が52%であり, 5段階が少ないことから, 中・下位層を含めて全体的に底上げを図る必要がある。
- ・科学的な思考・表現に関する内容の定着を図る必要がある。
- ・予想をもとに結果を見通して実験を構想する力, 複数の情報を関連付けながら分析して考察する力に課題がある。

〈課題〉

- ・4, 5段階が64%であり, 中・下位層の底上げを図るとともに, 上位層を更に伸ばしていく必要がある。
- ・濃度に関する知識や技能, 風速の観測方法や記録の仕方に関する知識や技能を活用すること, 複数の観察, 実験の結果を比較し, 分析して解釈する力に課題がある。

【改善策】

今後, 本町の学力向上施策の重点として, 以下のことに取り組んでいく。

- 児童生徒の基礎的・基本的事項の定着を図るとともに, 思考力・表現力を育成し, 「主体的・対話的で深い学び」を実現するため, 各学校における授業改善に向けた校内研修を充実させ, 「北薩の授業づくり3ポイント」を意識した授業実践について指導する。
- 本町で実施している各教科等部会, 中学校区教育研究会を中心に, 授業を通じた指導力向上につながる研修を実施する。中学校においては, 各教科担当教諭による町内共通の実力テストの作成を通して, 町内の先生方同士の情報共有及び指導力向上につなげる。
- 各学校において, 本調査結果から誤答傾向をもとにした分析を通して自校の課題を明確に捉えるとともに, 「かごしま学力向上支援Webシステム」の問題を計画的に活用するよう, 管理職研修会で指導する。

また, 以下の内容について, 管理職研修会や校内研修会等で周知, 指導し, 各学校で取り組ませるようとする。

【小学校】(国語科) 目的や意図に応じて, 必要な情報を的確に捉え, 自分の考えをまとめ, 表現する活動を行う。
(算数科) 日常生活の場面から問題を取り上げ, 数理的に問題を解決する活動を行う。
(理科) 自らの予想や仮説を基に, 結果を見通した解決の方向性を構想する学習活動を行う。

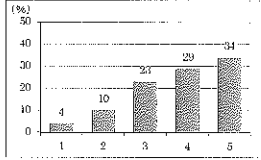
【中学校】(国語科) 文章の構成や展開に着目させ, 自分の考えを他者と交流し, 表現する学習活動を行う。
(数学科) 問題場面から必要な情報を的確に読み取り, 問題解決の方法を数学的に説明する学習活動を行う。
(理科) 問題解決の見通しをもたせ, 解決の方法を考えるとともに, 複数の結果を比較, 分析して解釈する学習活動を行う。

【様式1】

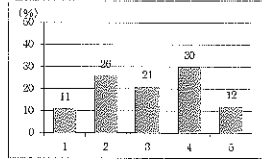
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

伊佐市教育委員会

【小学校】
【国語A】



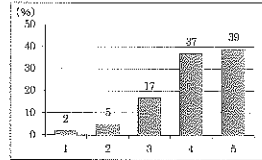
【国語B】



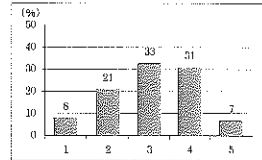
〈課題〉

- ・1・2段階はA問題で14%、B問題で37%であることから、特に活用する問題については下位層の割合が多い状況である。
- ・A問題については、文章の中における主語と述語との関係などに注意して、文章を正しく書くことに課題がある。
- ・B問題については、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えることに課題がある。

【中学校】
【国語A】



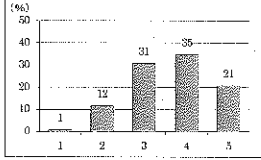
【国語B】



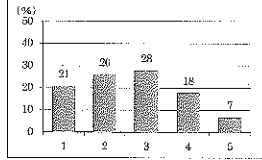
〈課題〉

- ・A問題については、4・5段階は86%であり、概ね基礎・基本は定着しつつあるが、B問題については、下位層や中位層が多いため、活用する力が不十分である。
- ・A問題から、話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことや構成を考えて適切な文章を書くなど全体を把握することに課題がある。
- ・B問題については、文章中の表現の理解に課題がある。

【算数A】



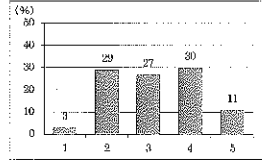
【算数B】



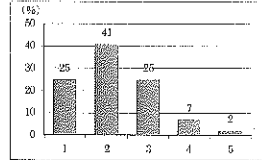
〈課題〉

- ・A問題については、およそ全国と同様の状況であるが、下位層の引き上げと上位層の割合を高める必要がある。B問題については、下位層の割合が多く、上位層の割合が少ない状況である。
- ・B問題については、示された情報を解釈し、条件に合うものを求めることや規則性を解釈し、それをもとに判断することなど、問題の理解と分析、判断することに課題がある。

【数学A】



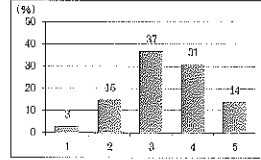
【数学B】



〈課題〉

- ・A問題、B問題ともに下位層が多く、上位層が少ない状況である。基礎・基本の定着を繰り返し行い、活用する力の育成にも取り組む必要がある。
- ・基本的な計算や代入などからつまづいている生徒が多く、数学の用語などの理解も不十分である。まずは、基礎・基本の定着を徹底させながら、活用する力を育成していく必要がある。

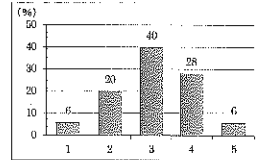
【理科】



〈課題〉

- ・1・2段階は18%であり、全国の割合と同等である。しかし、5段階の割合が全国の割合と比べて低い状況であるため、下位層に対しての手立てをとりながら、中位層を伸ばす取組が必要である。
- ・活用に関する問題につまずきがあり、複数の情報を関係付けながら、分析して考察することに課題がある。

【理科】



〈課題〉

- ・1・2・3段階の割合が非常に多く、学力の向上が必要である。活用する問題においても課題があるが、それ以上に知識に関する問題について課題がある。
- ・自然事象についての知識・理解について平均正答率が特に低く、基礎的な内容を定着させながら、活用する問題についても取り組んでいく必要がある。

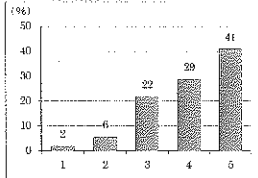
【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上に向けた重点施策として取り組んでいく。
- 授業や家庭学習の取組を学校全体で共通して実践するとともに、かこしま学力向上支援Webシステムの単元別評価問題を授業や家庭学習等で効果的に活用し見届けを行う。
 - 授業の課題追求の場面にについて全学校で共通して取り組み、市全体で共有して授業改善をさらに進めていく。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各学校で取り組ませる。
- [小学校] (国語科) 基本的な知識・理解・言語の定着を図りながら、自分の考えを理由や根拠を明確にして、表現させる活動を行う。
 - (算数科) 小テストや基礎基本の定着の時間の設定をし、基本的な計算などを確実に習得させる。
 - (理科) 観察や実験などの技能や知識・理解を図りながら、活用する問題にも対話などをさせながら取り組ませる。
 - [中学校] (国語科) 資料から必要な情報を読み取り、根拠を明確にししながら、筋道を立てて対話をする活動を取り入れ、表現力の向上を図る。
 - (数学科) 基礎基本の向上を図りながら、筋道を立てて考えさせる活動を取り入れ、自分の考えをまとめる時間を設定する。
 - (理科) 基本的な内容の定着を図るとともに、観察や実験等から実生活につながるよう興味・関心を高めるような指導を行う。

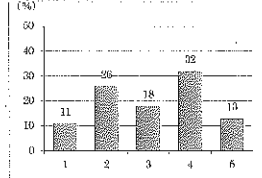
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

霧島市教育委員会

【小学校】
【国語A】



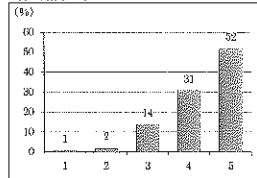
【国語B】



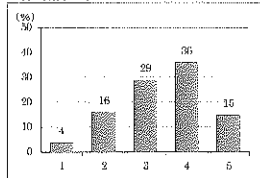
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題は5段階が41%、4段階が30%弱であり、基礎基本は身に付いていると言える。ただし、B問題については、M字型の分布で、2極化している。
- ・目的に応じて必要な情報や話し合いにおける質問の意図を捉えたり、文章を書くときの工夫とそのよさを捉えたりする問題に課題がある。

【中学校】
【国語A】



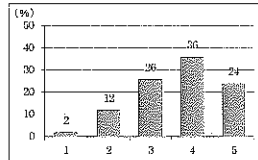
【国語B】



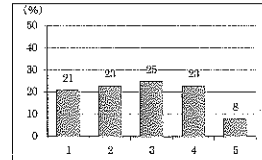
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題は5段階が52%と半数を超えており、基礎基本は身に付いていると言える。B問題については、5段階が非常に少なく、中・低位層が多くなっている。
- ・文章とグラフの関係を捉えたり、登場人物の言動の意味などを考えたりしながら内容を捉える問題に課題がある。

【算数A】



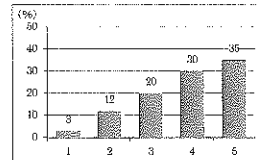
【算数B】



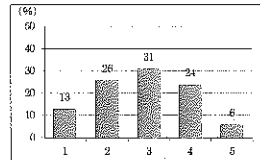
〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、算数Aについては4の児童が多く、1の児童が少ない。また、算数Bについては、5の児童が少なく、1～4の割合はほぼ差がない。
- ・棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを適切に判断することが課題である。

【数学A】



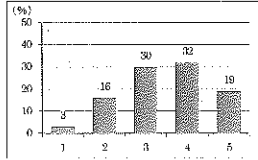
【数学B】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、数学Aについては5の生徒が多く、1の生徒が少ない。また、数学Bについては、3の生徒が多く、3から離れるにつれて緩やかに少なくなっていることが分かる。
- ・一次関数の意味を理解したり、グラフの特徴を式と関連付けて考えたりすることが課題である。

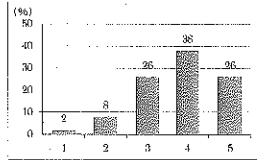
【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、3・4の段階の割合が多い。
- ・学んだことをもとにしたものづくりへの適用ができるかどうかについて課題がある。
- ・実験結果をもとに分析し、問題に正対したまとめができるようにすることに課題がある。

【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況については、4の段階の割合が多い。
- ・条件を制御してシミュレーションを行い、考察を検討して改善できるようにすることに課題がある。
- ・実験の目的に応じた条件を指摘し、条件制御の知識・技能を活用できるようにすることに課題がある。

【改善策】

本市では、学力向上に向けた取組の状況を問う質問項目を学校評価に取り入れることで、各学期の学力向上の取組の成果が数値として学期末に明らかとなり、次学期の対策を計画・実践するPDCAサイクルに基づいてすすめている。今後以下に示す事項について重点的に取り組んでいく。

- 全国学力・学習状況調査の結果から、全国の水準よりも本校が上回っている本校のよさに着目し、本校のどのような取組が成果を上げているのかを職員が考え発言し合い、明らかになった要因を全職員で共通実践する職員研修を推進する。
- 児童生徒の学ぶ姿に着目し、児童生徒のよい姿を引き出すことができた要因について職員間で協議し合い、他教科・他学年においてもよい姿が見られるようにするための共通実践事項を一つ決めて学力向上プランに記載し、効果のある指導を組織的に行う基盤とする。

【小学校】(国語科)話し合い活動等ではねらいや目的に添った発言をさせ、文章の記述に現れる作者・筆者の「意図」を見抜く視点をもたせる。
(算数科)目的に応じてグラフを作り、複数のグラフを関連付けて考察できるようにする。
(理科)実験結果から得られた結果を自分のことばでまとめさせ、他者の考えを聞き、それを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりさせる学習活動を通して、より妥当な考えに改善させることで、問題により正対したまとめができるよう指導を行う。

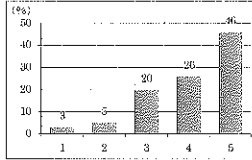
【中学校】(国語科)グラフや図、写真等の非言語テキストが、どのようなねらいをもって文章と関連付けられているかを読み取る指導を行う。
(数学科)具体的な事象における2つの数量の関係を、一次関数を用いて捉えられるようにする。
(理科)問題解決的な学習において、予想の場面では変化の要因を捉えさせる手立て、実験企画の場面では変化の要因を焦点化させる手立てを工夫することで、実験に応じた条件制御を行わせる。また、それらの手立てを主体的・対話的に行わせる。

【様式1】

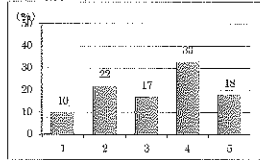
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

始良市教育委員会

【小学校】 〔国語A〕



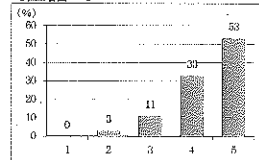
〔国語B〕



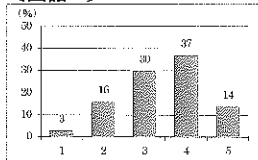
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況を見ると、国語Aの4・5段階は72%であるが、国語Bにおいては、51%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分付いているとは言えない。B問題においては中位層から下位層の割合が多い。
- ・ 国語Bにおいては、「話すこと・聞くこと」の設問において、全国平均を下回った。話し合いの中での司会の役割を理解したり、話し合いの目的意識や相手意識を明確にしたりすることに課題が見られる。

【中学校】 〔国語A〕



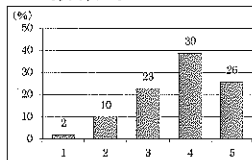
〔国語B〕



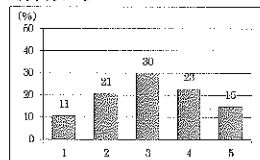
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況を見ると、国語Aの4・5段階は86%であるが、国語Bにおいては、51%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分付いているとは言えない。
- ・ 国語Bにおいては、説明文の読解の設問が、全国平均を下回った。「引用の効果」に対する設問であり、表現の効果について理解し、活用していくことに課題が見られる。

〔算数A〕



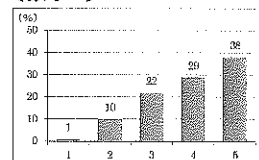
〔算数B〕



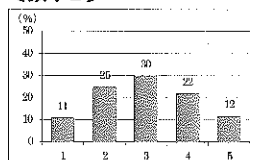
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況を見ると、算数Aの4・5段階は65%であるが、他教科に比べ割合が少ない。算数Bにおいては、38%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分付いているとは言えない。B問題においては下位層と上位層の割合が多い。
- ・ 算数Bでは、複数の異なるグラフの読み取りが、全国平均を下回っていた。グラフの読み取りに課題が見られる。

〔数学A〕



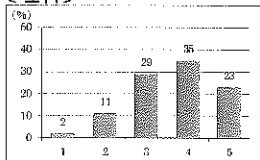
〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況を見ると、数学Aの4・5段階は67%であるが、数学Bにおいては、34%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分付いているとは言えない。B問題においては下位層の割合が多い。
- ・ 数学Bでは、証明を振り返り、発展的にみることができるかどうかをみる設問が全国平均を下回った。証明問題に対する課題が見られる。

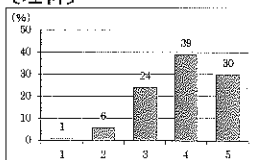
〔理科〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況を見ると、小学校理科は4・5段階が58%であり、よく理解できていると考える。
- ・ 物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを、食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適応できるかどうかをみる問題が全国平均を下回った。

〔理科〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況を見ると、中学校理科は4・5段階が69%であり、よく理解できていると考える。
- ・ 太平洋高気圧の発達や衰退が台風の進路に密接に関わっているという知識と、条件制御の知識・技能とを活用して、台風の進路を決める条件を指摘することができるかどうかをみる問題が全国平均を下回っている。

【改善策】

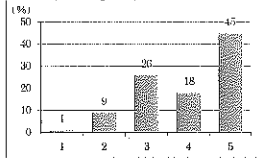
- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。
- 基礎的・基本的な内容において、全国平均を下回っている問題がみられた。市の「学力向上の七つの方策」のうち、「反復することの徹底」を指導しているが、「反復のさせ方」について工夫・改善が必要である。例えば、同じ問題を何回も繰り返して問うのではなく、問い方を変えたり、学年を超えて、基礎的・基本的な内容を繰り返し解いたりする必要がある。
 - 思考力・判断力・表現力の育成に向けて、市の「学力向上の七つの方策」のうち「書くことの徹底」を指導しているが、継続していく必要がある。まずは、授業のまとめの部分を自分の言葉で書かせることを徹底して指導していきたい。
 - 思考力・判断力・表現力を育成するために、かこしま学力向上支援Webシステムの問題の積極的な活用を指導する。具体的には、9月に市で行われる学力向上アクションプラン推進会議において、全国平均より下回った問題と関連するWEBシステムの問題を提示し、授業や家庭学習の中で積極的に活用するように指導する。また、以下の事項を管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 【小学校】(国語科)「話すこと・聞くこと」では積極的にビデオ等を活用し、視覚的に振り返らせるようにする。(算数科) グラフの読み取りに関する指導を繰り返し行う。(理科) 理科の実験が、どのような場合に適応できるかどうかを指導する。
- 【中学校】(国語科)「読むこと」では、表現の効果や価値について指導する。(算数科) 証明に関して例年課題があるため、証明の指導について、様々な問題に取り組ませるように指導する。(理科) 天気の前想については、対話的な活動を取り入れ、どのような根拠で予想するか明確にした話し合いを行わせる。

【様式1】

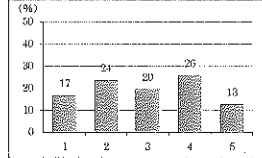
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

湧水町教育委員会

【小学校】 〔国語A〕



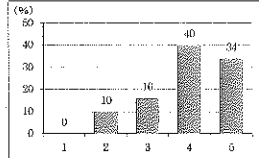
〔国語B〕



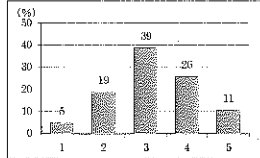
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の5段階は45%であるが、4段階が少なく、中位層を伸ばしていく必要がある。B問題では、5段階は13%と低く、低・中位層の活用する力を伸ばしていくことが課題である。
- 目的に応じて必要となる情報を捉えること、文章全体の構成の効果を考えることに課題がある。

【中学校】 〔国語A〕



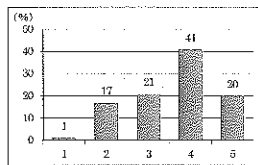
〔国語B〕



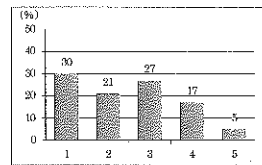
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題では、4・5段階が74%であるが、B問題では上位層が少なく3段階の39%がピークとなっている。中位層のレベルアップが課題である。
- 話合いの話題や方向を捉えること、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことに課題がある。
- 登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てることに課題がある。

〔算数A〕



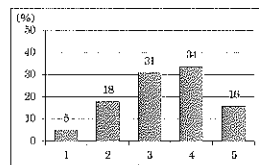
〔算数B〕



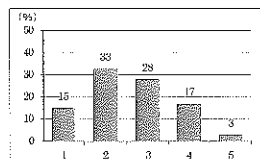
〈課題〉

- A問題で4・5段階は61%で、基礎・基本はある程度身に付いているが、B問題では22%と低く、1～3段階が77%であることから、活用する力を全体的に伸ばしていく必要がある。
- 日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連付けて論理的に考察し、数学的に表現したり、条件に合う事柄について、適切に判断したりすることに課題がある。

〔数学A〕



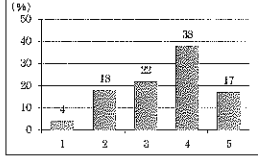
〔数学B〕



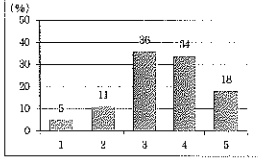
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題では4段階が34%と一番多いが、1～3段階が54%で基礎・基本の十分な定着が図られているとは言えない。B問題では、1～3段階が76%を占めており、活用力が身に付いていない。全体的な底上げが必要である。
- 四角錐の体積と、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の理解について課題がある。
- 証明を振り返り、発展的に考えることに課題がある。

〔理科〕



〔理科〕



〈課題〉

- 5段階の分布状況は、4・5段階が55%で、40%を占める2・3段階のレベルアップを図ることが課題である。
- 調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析したり、骨と骨とのつながりについて、科学的な言葉や概念を理解したりすることに課題がある。
- 既習の内容や生活経験をものづくりに適用することに課題がある。

〈課題〉

- 5段階の分布状況については、3・4段階が70%と多く、1・2段階は16%と少ない。中位層をいかに引き上げていくかが課題である。
- 神経の名称や、感覚器官が受けた刺激が脳に伝わる経路の名称を答えることに課題がある。
- 地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けることに課題がある。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 「授業で人が育つ」を基本理念として、全ての学校において主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指して、「めあての設定」「学習の振り返り」の設定」を共通実践事項とし、児童生徒の学びに向かう力の喚起を大切に授業づくりに努めさせる。
- 今回の調査結果の分析に基づき、自校の学力の課題を共有し、学習指導法の改善を図るための校内研修を推進させるとともに、町内の教員が共通に実践する事項を共有し、各教科の学習指導法の改善を図る「小中合同授業研究会」や「学力向上推進会議」の実施を図っていく。
- 「早寝・早起き、あいさつ」などの基本的な生活習慣の確立と学力は高く相関しており、全学校において、家庭・保護者の理解・協力を得ながら、子供たちのよさや自信を育むよう、自己肯定感の醸成に努め、基本的な生活習慣の確立に向けた取組を更に推進していく。

また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各学校で取り組ませる。

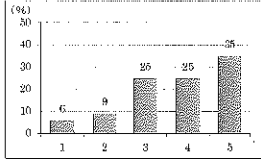
- 〔小学校〕(国語科)相手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる活動の充実
(算数科)考えを伝え合い、練り合う時間を確保し、課題に対する解を自分の言葉で表現する活動の重視
(理科)学習を通して獲得した知識を実際の自然や日常生活に適用できる活動の充実
- 〔中学校〕(国語科)事実と考えの関係に注意し、目的や場面に応じた的確に話したり聞いたりする活動の重視
(数学科)関数の意味を理解し、関数関係を見いだしたり、関数を判断したりする活動の重視
(理科)予想や仮説を立て、検証するための観察・実験を計画する学習活動の充実

【様式1】

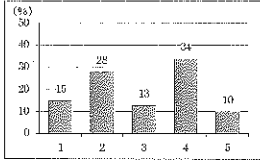
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

曾於市教育委員会

【小学校】
〔国語A〕



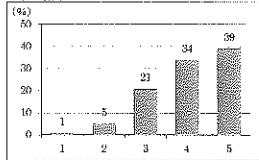
〔国語B〕



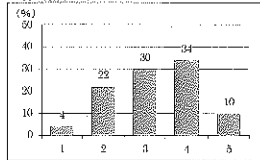
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は60%であるが、B問題は44パーセントである。B問題については、下位層が多い。
- ・ A問題では、相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話すこと、相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと、B問題では、推薦する事物を伝えるために他のものと比較して書くことに課題がある。

【中学校】
〔国語A〕



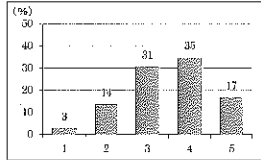
〔国語B〕



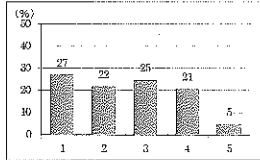
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は73%であるが、B問題は上位層が少なく、中位層、下位層が多い。
- ・ A問題では、語句の意味を正しく理解し、文脈の中で適切に使うこと、B問題では、場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することに課題がある。

〔算数A〕



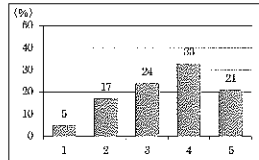
〔算数B〕



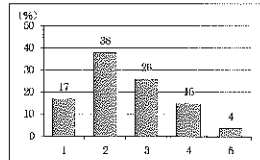
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は52%であるが、B問題の4、5段階は26%と極端に少なく、下位層が半数を占めている。
- ・ A問題では、除法で表すことができる二つの数量関係の理解や小数の除法の意味についての理解、B問題では、図形の構成要素や性質を基に観察し、図形を判断し論理的な考察をしたり、数学的に表現したりすることなどについて課題がある。

〔数学A〕



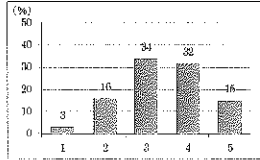
〔数学B〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は54%であるが、B問題の4、5段階は19%と極端に少なく、下位層が半数以上を占めている。
- ・ A問題では、数量の大小関係を不等式に表すこと、B問題では、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することなど、記述式の問題について課題がある。

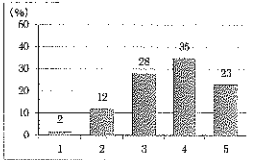
〔理科〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4、5段階は47%であるが、下位層も約2割ほど占めており、基礎・基本の確実な定着を図る必要がある。
- ・ 実験結果の見通しを件った解決の方向性の構想、実験結果をもとにした分析をすることに課題がある。また、学んだことを基にしたものづくりへの適用など、習得した知識・技能を活用する問題にも課題がある。

〔理科〕



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について、4、5段階は58%であるが、下位層も1割を超えており、基礎・基本の確実な定着を図る必要がある。
- ・ 神経系の働きについての知識、電流計を回路に直列に接続する技能及び電流計の電氣用図記号の知識、自然の事物・事象の中から要因を抽出し、適切に条件を制御して観察・実験を行うことに課題がある。

【改善策】

- 今後、「曾於市学力向上プラン」に基づき、学校訪問や授業参観等を通して、特に以下に示す事項について、指導の更なる充実を図る。
- 1 学びを支える「基礎力」の徹底……学習規律(授業での約束・学び方)の徹底、コミュニケーション能力の基盤となる「聴き合う」態度の育成等、「学びの基礎力」の定着の徹底を図るとともに、つまずきの早期発見や補充指導等、「知識・技能」の確実な定着に向けた指導を徹底する。
 - 2 「曾於市学力向上スタンダード」に基づく授業づくり……自分の考えを記述したり相手に分かりやすく伝えたりする場や、学び合いを通した課題解決、学びを実感できる振り返りの場の設定等について指導を徹底する。
 - 3 かごしま学力向上支援Webシステム評価問題等の活用……授業や個別指導において、計画的・効果的に活用し、定着が不十分な領域の指導を徹底する。
- 以下の事項について、管理職研修会や校内研究授業等で指導を徹底し、授業改善を図る。
- 〔小学校〕(国語科) 目的や意図に応じて、文章全体の構成や内容を工夫して、自分の考えを明確にしなが書く指導などを徹底する。(算数科) 基礎・基本の徹底とともに、日常生活の事象を数理的に捉え、問題を解決する指導などを徹底する。(理 科) 結果の見通しをもって実験を構想できるように、児童同士で検討したり発表したりする指導などを徹底する。
 - 〔中学校〕(国語科) 登場人物の心情や情景描写などを注意しながら読み取ったり、構成や展開、表現の効果について考えたりする指導などを徹底する。(数学科) 問題解決の構想を立てて、評価・改善することを通して数学を利用することのよさを実感できるような指導などを徹底する。(理 科) 自然の事物・現象と実験の装置や操作との対応を指摘したり、視覚化したりしながら知識を習得させる指導などを徹底する。

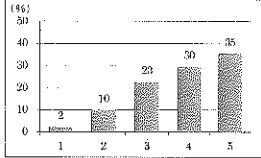
【様式1】

平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

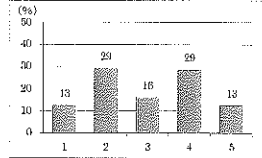
志布志市教育委員会

【小学校】

【国語A】



【国語B】

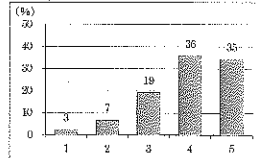


〈課題〉

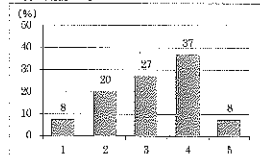
- 5段階の分布状況について、A問題の4・5段階が65%であるが、B問題では中間層が少なく、上・下位層が同様の分布であることから、下位層をどのように伸ばしていくかが課題である。
- 目的や意図に応じて文章全体の構成を考え、必要な内容を整理して書くことに課題が見られる。

【中学校】

【国語A】



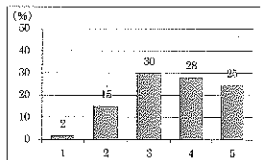
【国語B】



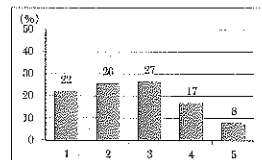
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の4・5段階は71%であるが、B問題は3・4段階が64%であり、身に付いている力を活用する力が全体的に定着していない。
- 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書くことや相手に的確に伝えるようにあらすじを捉えて書くことについて正答率が低く、無解答率も高い。

【算数A】



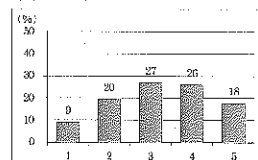
【算数B】



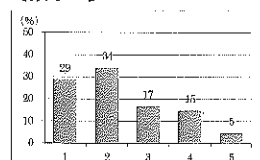
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の4・5段階が53%であるのに対し、B問題の4・5段階は25%と少なく、1・2段階の下位層が48%となっている。基礎・基本及び活用する力にも十分定着していない。
- 図や表をもとに考察し、自分の考えを言葉や数を用いて説明したり理由を書いたりする記述式の問題に課題が見られる。

【数学A】



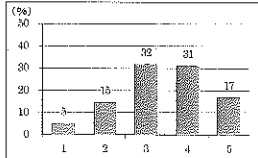
【数学B】



〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題で分布の広がりが大きい。また、B問題では下位層が63%と多く、基礎・基本及び活用する力にも十分定着していない。
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。記述式の問題では無解答率が高い。

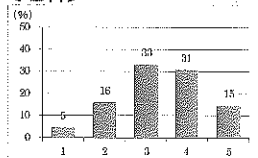
【理科】



〈課題〉

- 5段階の分布状況については、4・5段階が48%である。下・中位層をどのようにして伸ばしていくかが課題である。
- 複数の情報を関連付けながら分析して考察することや調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析することに課題がみられる。

【理科】



〈課題〉

- 5段階の分布状況については、4・5段階が46%であり、小学校と同様に下・中位層をどのように伸ばすかが課題である。
- 一つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘したり、化学変化を表したモデルを検討し、改善して原子や分子のモデルで説明したりすることに課題があり、無解答率も高い。

【改善策】

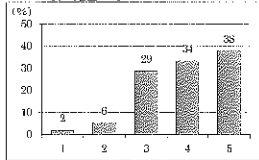
- 今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
- 志布志市授業モデル等に基づき、教師一人一人の授業課題を明確に把握させ、導入・展開・終末における学力向上のポイントに沿った指導を確実に行う。
 - 個に応じた学習活動の充実を目指し、かごしま学力向上支援Webシステムの活用を推進する。また、児童生徒の関心・意欲の向上、理解の深さや広がり、指導の効率化のために、ICTタブレット、書画カメラ等効果的に活用し授業改善を図る。
 - 児童生徒質問紙で明らかとなった家庭学習、食育の充実に向け、「志アップ子育て手帳」を用いて、各校のPTAや社会教育事業の中で啓発する時間を設け、保護者や住民の学力に対する意識を向上させる。
 - 志学教室(中学生の土曜学習教室)、生涯学習課の各種体験活動等の参加者を増やすため保護者、住民への啓発の在り方を工夫する。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 【小学校】(国語科)表やグラフ、図から考えたことを記述し、考えたことをもとに話し合う主体的で対話的な学習を徹底させる。
(算数科)教師の意図を明確にした発問により論理的な説明・根拠を練り上げる活動、考えを記述する活動を充実し継続させる。
(理 科)個々の予想を大切にしながら検証を行い、実験や観察結果から考察し分析する学習を徹底させる。
- 【中学校】(国語科)雑誌、新聞等、多様な文章に触れ、それぞれに応じた読みを深め、自分の考えを長文で記述する指導を行う。
(数学科)論理的な思考や根拠をもとに表現する場を多く設定し、順序立てた説明の仕方の習熟により無解答を減らす。
(理 科)予想を検証するに当たり、条件を整理しながら実験や観察を行い、結果を基に分析して解釈する学習を徹底させる。

【別紙様式】

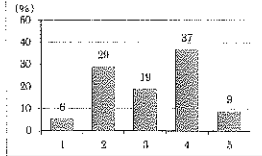
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

大崎町教育委員会

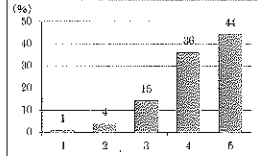
【小学校】
【国語A】



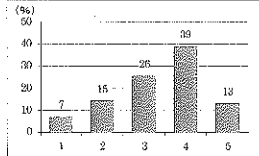
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



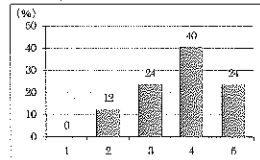
〈課題〉

- 5段階の分布状況から、基礎・基本は身に付いてきているが、それらを活用する力が十分身に付いていないと考えられる。
- 記述式の問題については、無解答率が低いものの誤答率が高い。目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書いたり、話し合いの中で相手の発言の意図を捉えたりすることに課題が見られる。

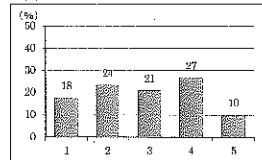
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、4・5段階ではA問題が80%と高い。
- B問題の分布は、A問題の状況と比較的類似していることから、基礎・基本の力を活用し生かせるよう、指導の底上げが課題となる。
- 漢字の書き取りに課題が見られる。
- 物事を見たり聞いたりしたことを、比較したり適切な言葉を選んだりしながら順序立てて書いたりすることに課題が見られる。

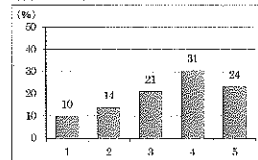
【算数A】



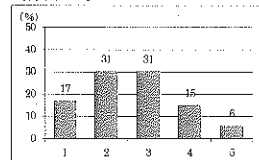
【算数B】



【数学A】



【数学B】



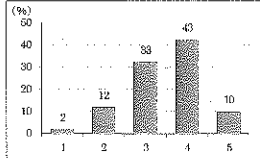
〈課題〉

- 5段階の分布状況から、基礎・基本は身に付いてきているが、それらを活用する力が十分身に付いていない。
- 与えられた条件から答えを導き出すためのものの見方や考え方、解決方法等を考えることに課題が見られる。
- 記述式の問題では、無解答率が低いものの誤答率が高い。解法を導き出す方法の他に、順序だてて説明することに課題が見られる。

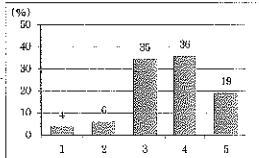
〈課題〉

- 5段階の分布状況から、基礎・基本及び活用力とも十分定着していない。
- 全体的に課題が多いが、特に図形の要素を理解したり、関数の意味を捉えグラフや言葉で表したりすることに課題が見られる。
- 記述式の問題では、無解答率が高い。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- 5段階の分布状況から、中・上位層が多いものの、下位層の児童の学習状況を分析し、個に応じた指導が必要である。
- 短答式の正答率が高い。また、無解答率は0%である。
- 実験の手順の理解といった「知識」に関する問題では、全国や県と比較しても高い正答率である。一方、実験の結果を基に考察したりまとめたりする問題では、全国や県と比較して落ち込みが見られる。

〈課題〉

- 5段階の分布状況から中・上位層の生徒はいるものの、1段階の生徒も4%いる。実態をきめ細かに把握し、個に応じた指導が必要である。
- 短答式の正答率では落ち込みが見られる。また、科学的思考力を下支えする基礎的な知識の定着が不十分ことから、一層定着を図る必要がある。

【改善策】

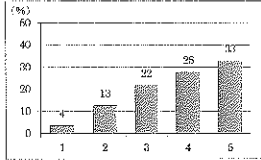
- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 「学びの組織活性化」推進プロジェクトモデル校において、継続的な学校訪問をとおして、指導主事等による学力向上支援や指導・助言を行う。また、小・中連携研究会における授業公開を通して、子供たちに身に付けさせる「学び合い」の仕方を協議し、各学校での実践を生かす。
 - 活用力を身に付けさせるために、「かごしま学力向上支援Webシステム」や大崎教育事務所から提供されている「よか問」を活用するよう、各学校への指導を徹底する。
 - 学校別解答状況整理表(S-P表)を活用し、定着が不十分であった問題については、補充指導を徹底させる。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 【小学校】(国語科) 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書いたり、話し合ったりする活動が充実できるよう、助言と指導を行う。(算数科) 計算の習熟を深めるほか、問題の解決方法について順序だてて説明する学習を授業で取り入れるよう指導する。(理科) 実験や観察の「結果から分かること」について、教師が主体的に対話的な学習に取り組ませる指導を徹底する。
 - 【中学校】(国語科) 物事を見たり聞いたり比較したりしたことを適切な言葉で順序立てて書かせ、話し合わせる活動を継続して行う。(数学科) 計算力の底上げと、既習事項を生かして問題解決を図れるよう、見方や考え方等についての指導を繰り返す行う。(理科) 基礎的な知識を一層定着させ、実験を予想→企画→結果→考察までの流れで主体的・対話的に行えるよう指導する。

【様式1】

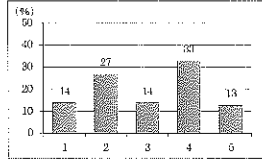
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

垂水市教育委員会

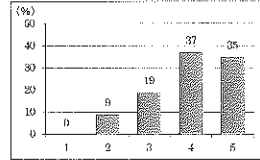
【小学校】 【国語A】



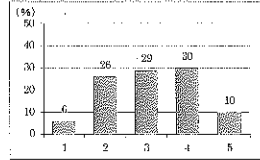
【国語B】



【中学校】 【国語A】



【国語B】



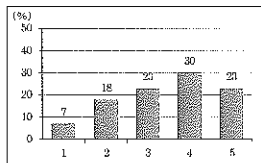
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は61%であるが、B問題では46%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用していく力に課題が見られる。
- ・ 相手や場面に応じて適切に敬語を使うことや、話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることなどに課題がある。

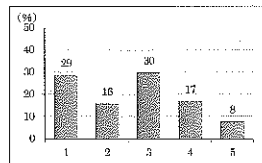
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は72%であるが、B問題では40%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用していく力に課題が見られる。
- ・ 登場人物の言動の意味などを考え内容の理解に役立てることや古典に表れたものの見方や考え方の理解などに課題がある。

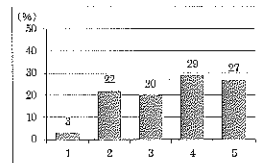
【算数A】



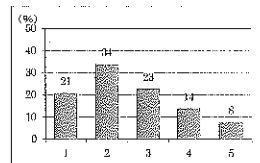
【算数B】



【数学A】



【数学B】



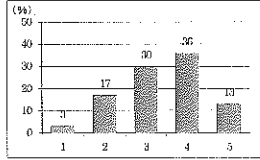
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は53%であるが、B問題では25%であることから、基礎・基本の力と、それを活用していく力の両方に課題が見られる。
- ・ 十進位取り記数法で表された数の大小についての理解や示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することなどに課題がある。

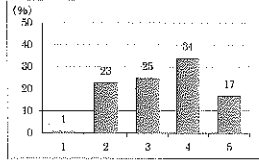
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況については、A問題の4、5段階は56%であるが、B問題では22%であることから、基礎・基本の力と、それを活用していく力の両方に課題が見られる。
- ・ 絶対値の意味を理解することや、事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することなどに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況については、ほぼ全国の分布状況と同じ傾向が見られるが、本市の児童は成績上位層が少なく、中位層が若干多くなっている。
- ・ 2つの異なる方法の実験結果を分析して考察することに課題があり、指導の充実が求められる。
- ・ 理科で学んだことを自然の事象・現象に適用することに課題があり、指導の充実が求められる。

〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況について全国の分布状況と比較すると、本市の生徒は成績上位層が少なく、下位層が多くなっている。
- ・ 地震の揺れの伝わり方や光と音の伝わり方に関する知識・技能の活用に関する課題があり、指導の充実が求められる。
- ・ 理科に関する知識と、自然の事象・現象を実験の装置や操作に対応させたモデル実験の知識・技能を活用することに課題があり、指導の充実が求められる。

【改善策】

○ 基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、問題解決的な学習に基づいた授業を展開することを中心に据えた学力向上に努める。

具体的には、以下に示す事項について、本市の学力向上施策実施における重点として取り扱うようにする。

【小学校】(国語科) ・地域の人や保護者などに関わる学校行事等を活用して、敬語を使うことに慣れることができる指導の充実

(算数科) ・話し合いを振り返りながら質問することや司会の進め方について、観点ごとに整理する活動の充実

(理 科) ・数の大小を比較するために、どの位に着目すればよいかを判断できるようにする指導の充実

(理 科) ・必要な情報を収集した際に、それらを効果的な表に整理し比較しようとする態度を育成する指導の充実

(理 科) ・複数の実験結果を分析し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにする指導の充実

(理 科) ・既習内容や生活経験と関係づけて話し合う場を設定し、自然の事象・現象を捉えることができるようにする指導の充実

【中学校】(国語科) ・登場人物の言動と、話の展開や作品全体に表れたものの見方などとの関連を読み取る指導の充実

(国語科) ・古典において、登場人物や作者の思いを想像することで、古典での見方や考え方を理解することができる指導の工夫

(数学科) ・正の数と負の数の範囲で、数直線等を用いて絶対値の意味を理解できるようにする活動の充実

(数学科) ・事柄が成り立つ理由を説明するために、数学的な解釈や根拠を正しく用いて理由を説明できるようにする活動の充実

(理 科) ・震度とマグニチュード、初期微動と主要動など、地震に関する知識を身に付けることができるようにする指導の充実

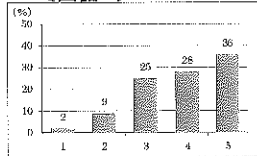
(理 科) ・自然の事象・現象と実験の装置や操作との関係を理解できるようにする活動の充実

【様式1】

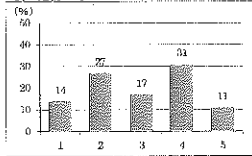
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

鹿屋市教育委員会

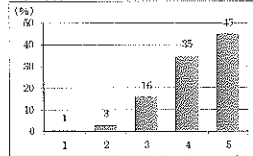
【小学校】
【国語A】



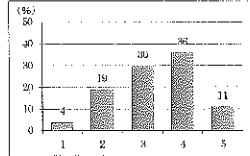
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



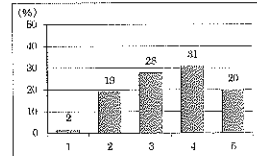
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題で4・5段階の児童が64%であり、昨年度に比べて減少している。B問題は、4・5段階の児童が増加したが、1・2段階の児童も増加していることから、思考力、判断力、表現力等の育成には依然として課題がある。
- ・ 目的に応じて必要な情報を捉えることに課題がある。
- ・ 質問の意図を捉えたり、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えたりすることに課題がある。

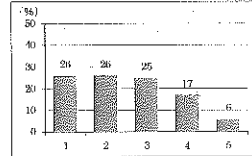
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況ではA問題で4・5段階の生徒が78%であり、昨年度より増加している。B問題は、5段階の生徒が減少し、1・2段階の生徒が増加していることから、思考力、判断力、表現力等の育成には依然として課題がある。
- ・ 書いた文章が伝わるかを検討したり、話合いの話題や方向を捉えたりすることに課題がある。
- ・ 人物の言動の意味を考え、内容理解を図ることに課題がある。

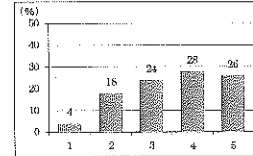
【算数A】



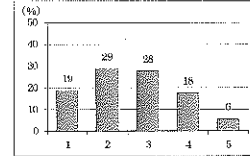
【算数B】



【数学A】



【数学B】



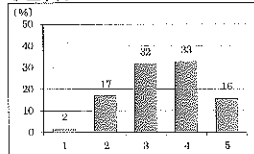
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題は4・5段階の児童が51%はいるものの、昨年度より少なくなっている。B問題も4・5段階の児童が少なくなり、1～3段階の児童が増加している。したがって、基礎・基本的な内容のより一層の確実な定着と、思考力、判断力、表現力等の育成に課題がある。
- ・ 二つの数量の関係や小数の除法の意味を理解することに課題がある。
- ・ 数量を関係付け根拠を明確にして記述することに課題がある。

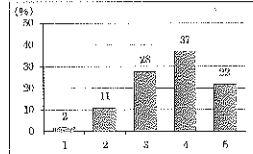
〈課題〉

- ・ 5段階の分布状況では、A問題で昨年度より、4・5段階の生徒が増加し、1・2段階の生徒が減少している。B問題は、4・5段階の生徒が増加しているが、1・2段階の生徒も増加していることから、思考力、判断力、表現力等の育成には依然として課題がある。
- ・ 絶対値や正負の数を理解したり、式を変形したりすることに課題がある。また、一次関数における増加量についての理解に課題がある。
- ・ 事柄が成り立つ理由について説明することに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・ 5段階の分布では4・5段階の児童が49%で前回より少なくなり、3段階の児童の割合が増えている。関係付けて考える問題の通過率が低く、思考力、判断力、表現力等の育成に課題がある。
- ・ 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することに課題がある。
- ・ 食塩の溶け方のきまりを条件を変えて当てはめて考えることに課題がある。

〈課題〉

- ・ 5段階の分布では4・5段階の生徒が59%であり、前回より高い結果になっている。知識・技能を活用する問題の通過率が低く、思考力、判断力、表現力等の育成に課題がある。
- ・ 台風の進路についての理解や地震の揺れについての理解に課題がある。
- ・ 変化の要因について見出し、分析することに課題がある。

【改善策】

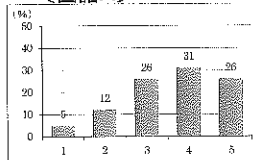
- 本年度は、「主体的・対話的で深い学び」の具体的な例を用いた研修や先進校における研修を行い、各学校において学力に関する各種調査を分析し、R-PDCAサイクルによって学力向上に対する具体策を修正しながら実践を進めている。今後は、更に学校担当指導主事も各学校の分析結果を基に、積極的に関わり、改善策を共に考えていく。
 - 中学校が、改善傾向になったことから、各中学校区において過去数年間の結果の成果と課題を基に、9年間を見通した取組を設定し、小学校と中学校の接続の在り方を検討していく。また、対話的な学びの基盤となる支持的風土を構築するために、各校における構成的グループエンカウンター研修も推進していく。
 - 大隅教育事務所作成の「よか問」やかごしま学力向上支援Webシステムの評価問題を活用し、個々の児童・生徒に対応した指導を行っている具体例を示し、継続的に指導を行えるように働きかけていく。
- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るとともに、下記の項目を授業改善の重点として取り扱うこととする。
- 【小学校】(国語科)学習した内容を、実際に活用しながら考えさせる活動、理由や根拠を明確にして表現する活動の充実
(算数科)具体物や半具体物を用いて、問題場面を考えたり、式やグラフの意味を筋道立てて説明したりする活動の充実
(理科)見通しをもった観察・実験を行い、結果を視点をもって考察する活動の充実
 - 【中学校】(国語科)目的を明確にして読み取る活動や根拠をもって説明する活動の充実
(数学科)基礎的・基本的な既習内容を活用したり、筋道を考えて説明したりする活動の充実
(理科)複数の結果を基に考察したり、日常生活の事象に関連付けたりするなど科学的に思考し、理解を深める活動の充実

【様式1】

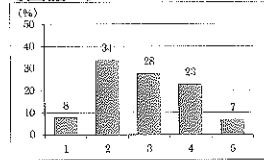
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

東串良町教育委員会

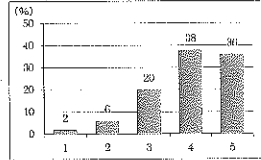
【小学校】
【国語A】



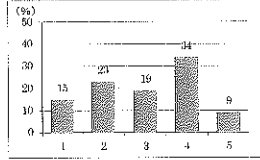
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



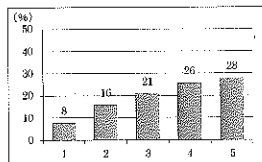
〈課題〉

- (1) Aの4・5段階は57.5%と6割に満たない。基礎・基本が確実に定着していないため、Bも2・3段階で6割を超える。
- (2) 目的や意図に応じて必要な内容を整理して書いたり、構成や内容を考えながら話したりすることに課題がある。
- (3) 相手や場面に応じて適切な言葉を使ったり、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることに課題がある。

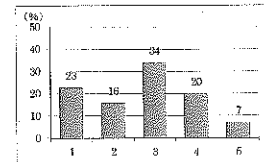
〈課題〉

- (1) Aの4・5段階は73.5%であるが、B問題では2・3段階と4・5段階の割合にあまり差がないことから、基礎・基本はある程度定着しているが、それを活用する力においては個人差がある。
- (2) 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書いたり、相手に的確に伝わるように、あらかじめ捉えて書いたりすることに課題がある。

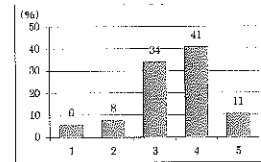
【算数A】



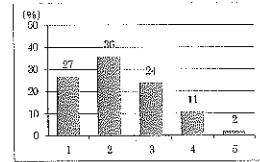
【算数B】



【数学A】



【数学B】



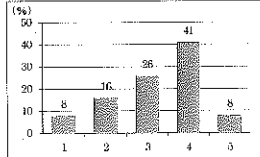
〈課題〉

- (1) Aの1～3段階が45.9%と約半数であり、基礎・基本が確実に定着していない。
- (2) 単位数当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解できていない児童が多い。
- (3) 与えられた条件と既習の学習内容とを関連付けながら考えたり、その解決過程や判断の理由を言葉や式で説明したりすることに課題がある。

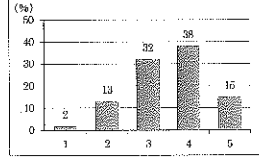
〈課題〉

- (1) 基礎・基本の確実な定着が図られていないため、Bでは1・2段階が62.4%であるとともに、無解答率が3割を超える設問も4題ある。
- (2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理したりすることに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- (1) Aの1～3段階が50.8%であることから、基礎・基本の確実な定着には至っていない。
- (2) 結果を見通して実験を構想したり、実験結果をもとに分析してその内容を記述したり説明したりすることに課題がある。

〈課題〉

- (1) Aの4・5段階が53%であることから、約半数の生徒が基礎・基本の確実な定着に至っていない。
- (2) 記述する設問の無解答率が高くなる傾向が見られる。既習の知識をどのように活用しながら問題解決を図っていくかを考えたり説明したりすることに課題がある。

【改善策】

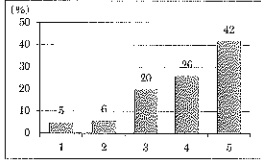
- (1) 学業指導の更なる充実を努めさせ、基本的な学習の態の徹底について指導する。(学ぶ姿勢の育成)
- (2) 学校教育目標の具体化を図るための学力向上に関する「共通実践事項」を再確認させるとともに、確実に実践するよう管理職研修会等を通して繰り返し指導する。実施状況を毎学期末に確認する。
- (3) 定着が不十分であった問題については、分析結果に基づく補充指導を徹底させるなど、各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか、管理職研修会等を通して見届けまで確実に進行。
- (4) 児童生徒が主体的に課題解決に取り組み、自分の考えを表現する場面を必ず授業の中に位置付けるなど、授業改善の視点を具体的に示す。また、学力下位層への対応については、特別支援教育支援員との連携を常に図り、個に応じた指導の徹底を図る。
- (5) 「かごしま学力向上支援Webシステム」、「大隅終末ベーンック」、「よか問」等の県や地区の学力向上施策や過去問を有効に活用し、児童生徒が良問に触れる機会を増やすよう指導助言する。
- (6) 家庭学習の習慣化に努めさせる。家庭学習の重要性を学年・学級PTA等において繰り返し保護者へ周知したり、週末の学習管理をお願いしたりするなど、保護者との連携を密に図らせる。(定期的な家庭学習時間調査の実施)
- (7) 「学びの組織活性化」推進プロジェクトに係るモデル校(東串良中学校)の取組を町小中一貫協議会でも話題に取り上げるなど、学力向上における課題を互いに共有し、2か1中の連携をより一層充実させる。

【様式1】

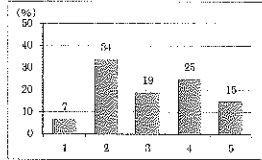
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

肝付町教育委員会

【小学校】
【国語A】



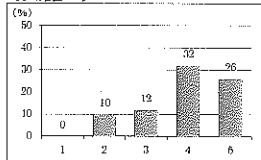
【国語B】



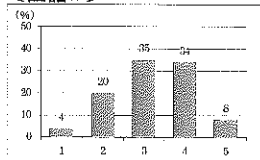
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の4、5の段階は68%であるが、B問題では39%であることから、基礎・基本は身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。
- 文章を読むための目的を明確にして読み、読み取った内容を条件に合わせてまとめることに課題がある。

【中学校】
【国語A】



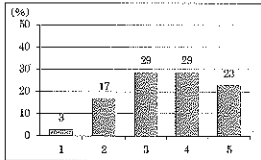
【国語B】



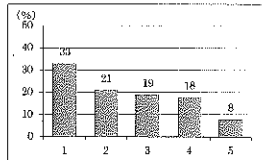
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の4、5の段階は58%であるが、B問題では3、4の中段層が多いことから、基礎・基本を活用する力が、十分ではない。
- A問題では、言語に関する問題に課題が見られ、B問題では登場人物に関する情報の取り出しに課題が見られる。

【算数A】



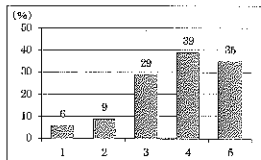
【算数B】



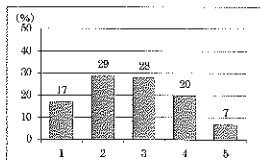
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の3、4段階の中段層が、B問題では低、中段層が多い傾向であることから、基礎・基本の定着とその活用ともに定着していない。
- 算数Aでは、除法に関連する問題に課題がある。B問題では、図やグラフ、問題文から情報を抽出してそれを関連付けることに課題が見られる。

【数学A】



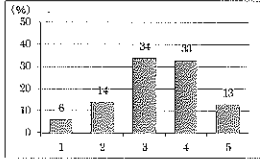
【数学B】



〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は74%であるが、B問題では2、3の低、中段層が多い傾向が見られることから、基礎・基本を活用する力が十分ではない。
- 解き方を数学的に表現した表現や証明の過程から、問われている情報を取り出すことに課題がある。

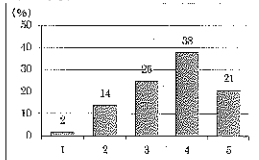
【理科】



〈課題〉

- 5段階の分布状況について、3、4段階の中段層が多い傾向が見られる。1段階は6%とやや少ない。
- 実験結果や既習内容を結び付け、そこから新たな知識を導くことに課題が見られる。
- A区分の問題について課題が見られる。

【理科】



〈課題〉

- 5段階の分布状況について、3、4段階の中段層が多く、5段階は21%となっている。1段階は2%と少ない。
- 用語や記号の定着に課題が見られる。
- 問題文や実験結果から、必要な情報を取り出し、それら関係付けて考察やまとめを行うことに課題がある。

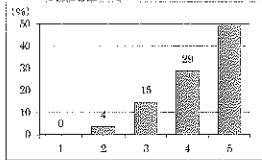
【改善策】

- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 校内のPDCAサイクルを確立させるために、大岡教育事務所で作成している「『PDCAサイクル』チェック表」を各学校へ配布し、その活用について教育委員会が見届けを行う。
 - 児童生徒の立場に立った授業を推進させるために、大岡教育事務所で作成しているグラフ作成ソフトを活用させ、その結果を授業改善の視点とさせる。また、この取り組みを定期的に行うことで、授業改善のPDCAサイクルを確立させる。
 - 「学力向上プロジェクト」の成果や「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用するよう、各学校への指導を徹底する。
- また、以下の事項を、管理職研修会や学力向上対策委員会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- 【小学校】(国語科) 目的に応じた情報に着目させるために、内容別サイドラインやつながりを示す矢印などを活用させる。
(算数科) 図やグラフ、問題文から必要な数値や関係を取り出させるために、数値の記入やつながりを示す矢印などを活用させる。
(理科) 実験結果をより適切に吟味させるために、根拠を基に立てた予想を証明していくことを意識付けた上で、実験に取り組む。
- 【中学校】(国語科) 目的に応じた情報を取り出させるために、該当箇所をサイドラインを引かせたり、その妥当性を話し合わせたりする。
(数学科) 言葉や式、グラフ、表などから必要な数値や関係を把握させるために、数値の記入やつながりを示す矢印などを活用させる。
(理科) ドリル等で基本的な知識を身に付けさせるとともに、生徒の課題意識を基にした問題解決的な授業を展開させる。

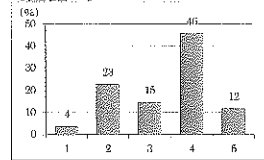
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

錦江町教育委員会

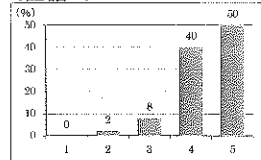
【小学校】
【国語A】



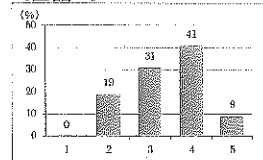
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



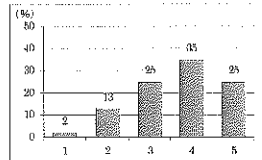
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は、81%であるが、B問題では、58%であることから、基礎学力は身に付いているが、それを活用する力は十分とは言えない。
- 問題を的確に読み取り、叙述をもとに、情景や人物の心情を深く読み取る力が十分でない。また、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にしながらかく活動の充実が課題である。

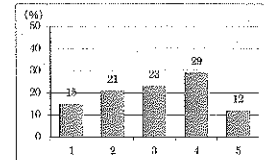
〈課題〉

- 5段階の分布状況について、A問題は4、5段階が90%であるが、B問題は、50%であり、中位層の活用力をどのように伸ばしていくかが課題である。目的をもって、具体的に書く活動を充実していく必要がある。
- 国語B問題での個人差が大きく、個々の実態に応じた指導・支援が必要である。また、無解答率も高いので、粘り強く学習に取り組む態度の育成も必要である。

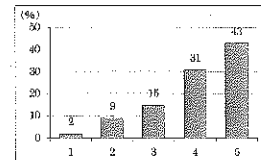
【算数A】



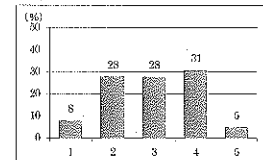
【算数B】



【数学A】



【数学B】



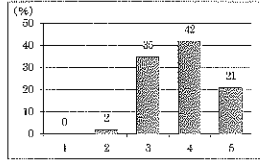
〈課題〉

- 5段階の分布状況では、A問題は4、5段階が60%であるが、B問題では、中・下位層に多い傾向がみられる。
- 学習した基礎・基本的内容を活用して、課題解決に取り組む態度の育成が課題である。また、日常の授業において、既習事項をもとに、言葉、数、式、図、数直線を用いて自分の力で解決したり、友達と話し合ったりする活動を十分に行う必要がある。

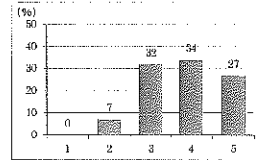
〈課題〉

- 5段階の分布状況では、A問題は、4、5段階が74%であるが、B問題では、36%と落ち込んでいる。基礎・基本で身に付けた力を活用して、課題解決に生かしていく力を育てることが課題である。
- 数学的に表現したり、数学的に表現された事柄を読み取ったりする問題については、無解答率が高いので、あきらめずに粘り強く問題に取り組む態度を育てることが課題である。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- 授業における観察や実験結果を基に分析して考察し、その内容を自分の言葉で表現する力に課題がある。
- より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察する力に課題がある。
- 授業では、実験結果を基に自分の考えをまとめ、対話する等、多角的・多面的に考察し分析する力を育てて行く必要がある。

〈課題〉

- 授業で習得した知識・技能を日常生活の場面に当てはめて思考していく問題について考える力に課題がある。
- 改善策として、授業では、予想や仮説を設定し、生徒の課題解決の意欲を大切にし、見直しをもって観察・実験を行い、得られたデータを分析して解釈し、適切に判断する学習を繰り返す行う。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。

- 日頃の授業において、児童・生徒が問題意識をもって学習活動を展開できるように、導入で学習問題などから、めあてを立てて、問題解決学習が行われるようにする。また、学びの主体性を持たせるために、単元全体の「学習の見通し」を持たせる指導を行う。
- 授業の終末では、「学習の振り返り」の場を設け、分かったことのまとめを行い、学習への達成感や自己肯定感を持たせる。
- 思考力、判断力、表現力等の育成のため、各学校に対し、「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用に関する指導を継続的に行うとともに、定着状況の把握と補充指導の充実について指導を徹底する。
- 教職員の指導力向上を図るために、校内研修に指導主事が参加して、授業づくりの支援や指導助言を行う。その際、「大隅終末ベーシック(パンフレット)」を活用し、授業づくりについての共通理解を図る。
- 定着が不十分であった問題については、学校全体で分析を行い、課題解決のための方策を共通指導事項として取り組むように指導する。特に、以下の事項を、町内の管理職研修会や各種研修会等で指導する。

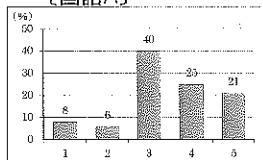
【小学校】(国語)問題文や叙述を正しく読み取り、自分と友達との考えの違いに触れさせ、多様な言語感覚や言葉の力を豊かにする。
(算数)身に付けた知識・技能を生かす活動を設定し、思考を深める場や手立ての工夫をする。

【中学校】(国語)主体的な学びの方法を工夫させるとともに、自分の考えを論理的にまとめる指導を行う。
(数学)自分の考えを、数・式・図等で捉え、数学的に自分の言葉で説明できる指導を行う。

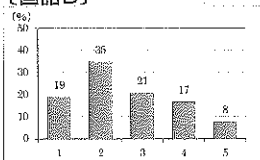
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

南大隅町教育委員会

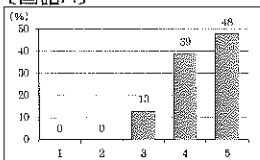
【小学校】
【国語A】



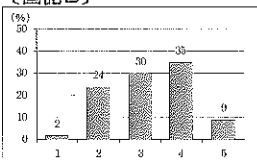
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



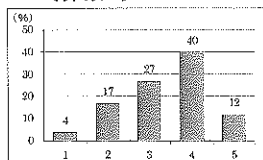
〈課題〉

・5段階の分布状況では、国語A問題では3段階が4割を占めているがこの割合を4・5段階へ引き上げる必要がある。基礎・基本の定着がまだまだ不十分であることが分かる。特に文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くことなどが重点課題である。B問題では、1・2段階が5割を占め、基礎基本の確かな定着を図るとともに活用能力をさらに身に付けさせる必要がある。特に領域別「書くこと」の正答率が低いことが分かった。

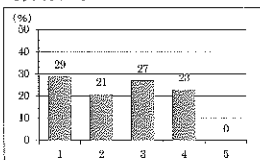
〈課題〉

・5段階の分布状況は、国語A問題については、4・5段階の生徒が8割で基礎基本はおおむね定着している状況にある。また、4領域とも正答率が8割を占めている。B問題については、2・3段階を5段階に引き上げる必要があり、更なる基礎基本や活用能力の定着のための指導の充実を図る必要がある。正答率の低い出題では、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えるところに課題がある。

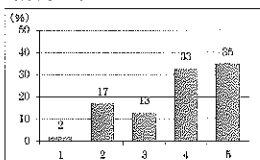
【算数A】



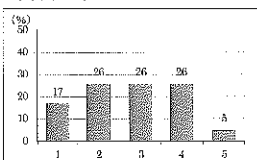
【算数B】



【数学A】



【数学B】



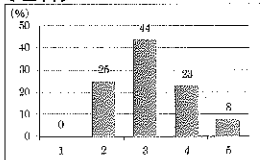
〈課題〉

・5段階の分布状況では、算数Aについては2・3・4段階の割合を5段階へ引き上げる必要がある。特に低い割合を示しているのが小数の除法の意味についての理解であり、基礎基本の定着を図る必要がある。算数Bについては、1～4段階の児童が多い傾向が見られ、思考力・判断力の定着が不十分な児童への指導の充実を図る必要がある。情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述することに課題がある。

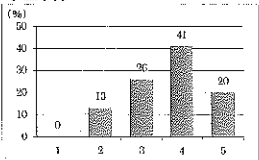
〈課題〉

・5段階の分布状況では、数学Aについては4・5段階の生徒が多いが、さらに2・3段階の割合を4・5段階に引き上げる必要がある。数学の基礎基本の定着を図ることで、数学Bの5段階の割合を引き上げ、それと同時に活用能力・応用能力をさらに身に付けさせる必要がある。正答率の低い出題では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況では、2・3段階が全体の6割を占め、4・5段階への引き上げが必要である。主として「活用」に関する問題の正答率が低く、具体的には、より妥当な考えをつくりだすために実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述したりすることや、電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想したりすることが今後の重要な課題となる。また、実験の目的に合ったものづくりにも課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、3・4段階が6割を占めているが、5段階へさらに引き上げる必要がある。「知識」に関する問題、「活用」に関する問題の正答率はあまり差はないが、正答率の低い問題では、濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できることが課題であったり、風向きの観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用したりすることに課題がある。

【改善策】

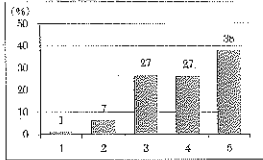
- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 学習集団の構造を分析を通して全職員へ共有させる。(下位層への指導方法改善はもちろん、上位層への今後の指導方法改善)
 - 目標の明確化と学習課題の工夫、見通しと振り返りの重視、主体的・対話的な学習活動の工夫など、各学校への指導を徹底する。
 - 効果的な発問、思考・表現の場を確実に設定するようにさせる。
 - 重点課題、よか問、過去問等、かごしま学力向上支援Webシステムの活用の指導を徹底する。
- また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
- (小学校) (国語科) 文の中における主語と述語との関係などに注意して文を正しく書くことができるように指導法を改善させる。
(算数科) 情報やグラフを関連付けて、総数や変化に着目していることを解釈し、それを正確に記述することができるように取り組ませる。
(理科) より妥当な考えをつくりだすために、実験結果をもとに分析し、その内容を正確に記述することや、電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる指導方法を取り入れるように助言する。
- (中学校) (国語科) 文章の展開に即して、情報を整理し、内容を正確に捉えることができるように指導する。
(数学科) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できるように指導する。
(理科) 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘することができたり、風向きの観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用することができるように、主体的・対話的な学習を徹底させる。

【様式1】

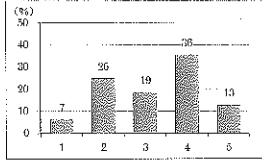
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

西之表市教育委員会

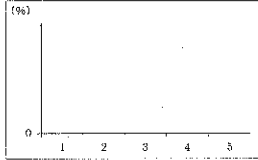
【小学校】
【国語A】



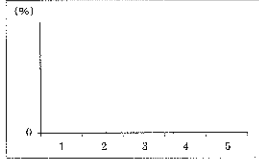
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】

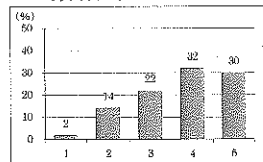


〈課題〉

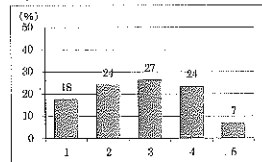
・5段階の分布状況について、A問題の2、3段階が34%、B問題の2、3段階が44%であることから、中位層の基礎・基本や活用する力を伸ばしていくことが課題である。また、B問題の4段階が36%、5段階が13%であることから、上位層の活用力を更に伸ばしていくことも課題である。
・文中における主語と述語との関係などに注意して、正しく文を書くことや相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに課題がある。

〈課題〉

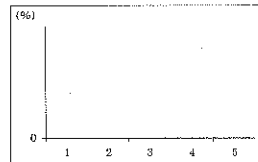
【算数A】



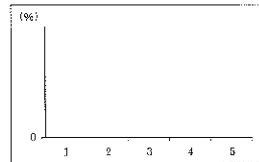
【算数B】



【数学A】



【数学B】

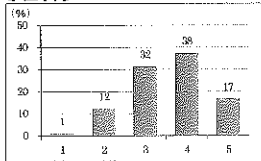


〈課題〉

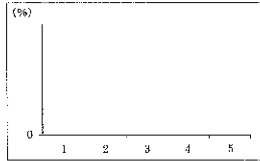
・5段階の分布状況について、A問題の1～3段階が38%であることから、下位、中位層の基礎・基本を身に付けていくことが課題である。また、B問題の1、2段階が42%であることから、下位層の活用力を伸ばしていくことも課題である。
・小数の除法の意味について理解することや百分率を求めることに課題がある。

〈課題〉

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況について、3、4段階が70%、5段階が17%であることから、中位層の学力を更に伸ばしていくことが課題である。
・実験結果をもとに分析して考察し、その内容を記述することや物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを理解することに課題がある。

〈課題〉

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本市の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

- 各学校における本調査の分析結果と課題解決に向けた具体的な取組を把握するとともに、各学校の課題解決に向けた取組の進捗状況の確認と指導・助言を行う。
- 指導主事が校内研修等へ積極的に参加し、管理職とともに指導・助言を行うことで、教師個々の授業力の向上と授業改善につなげる。また、研究授業において、授業者の発問や、児童・生徒への関わり、また、それに対する児童・生徒の反応等を記録できるようにICT機器を活用する。記録した映像等を用いながら授業を分析し、指導・助言に生かしていく。
- 「活用する力」を育成するために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を積極的に利活用するよう各学校に指導していくとともに、有効活用している学校の取組情報を提供していく。

また、以下の事項を管理職研修会や校内研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。

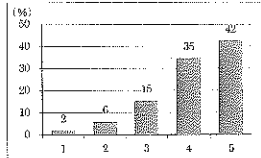
【小学校】【国語科】書いた文章を読み返す指導を行ったり、手紙を書くことなど必要性のある学習場面を設定させたりする。
【算数科】乗法の問題場面と除法の問題場面を表した図を比較する活動等、比較しながらそれぞれの意味を理解する場面を設定させる。
【理科】観察、実験の結果を基に、「事実」と「解釈」の両方を整理して説明できる指導の充実を図らせる。

【様式1】

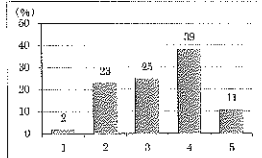
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

中種子町教育委員会

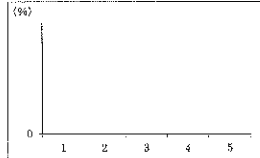
【小学校】
〔国語A〕



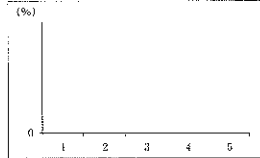
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕

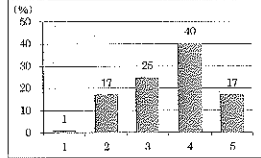


〈課題〉

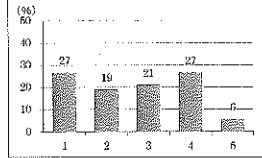
・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階の割合は、約70%であるが、B問題については50%である。昨年度と比較するとB問題の4、5段階の割合は増加したが、A問題の方は減少した。基礎基本的内容の定着を図りつつ、活用する力の育成を図ることが課題である。
・B問題の目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして詳しく書く問題や目的に応じて、文章の内容を押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題の通過率が低いことが課題である。

〈課題〉

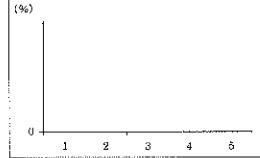
〔算数A〕



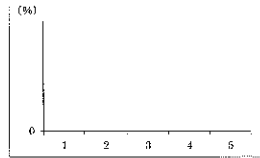
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕

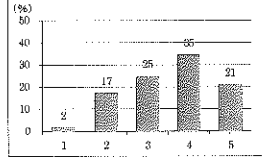


〈課題〉

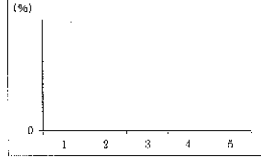
・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階の割合は約57%であり、B問題については33%である。昨年度と比較するとA問題は5段階の割合が大きく減少し、B問題についても全体的に左側に人数が動いている。
・図形に関する問題やグラフから変化の特徴を読みとる問題、与えられた情報から関係を捉え判断する問題等の通過率が低い。また、例年と比較して無解答率が高くなっているため、既習事項を生かして考えたり、別の方法で解決できないかを考えたりすることや最後まで粘り強く取り組み姿勢を育成することが課題である。

〈課題〉

〔理科〕



〔理科〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、4、5段階の割合は約56%である。4の段階がピークとなっているので1～3の段階を少しでも上の段階に引き上げることが課題である。
・複数の情報や実験結果を関連付けて分析・考察したり、説明したりする問題の通過率が低い。明確な目的に基づき観察・実験や実験結果に基づいて結論を導き出す動きを確実にし、科学的な思考・判断力を身に付けさせることが課題である。

〈課題〉

【改善策】

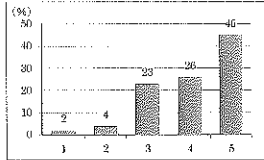
今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り組んでいく。
○ 問題レベルでの分析を行い、その結果を全職員で共有するとともに、正答率が低かった問題については、補充指導の徹底や授業中での取組についての検討・改善を行わせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実に図られるよう、共通実践と見届けを確実に行う。
○ 継続的な学校訪問を通して、「授業参観の視点」や「ゴールや方法の明確化」、「主体的・対話的で深い学び」の実現等に基づく授業づくりの支援や指導・助言を行う。
○ 全体的なレベルアップを図るために「かこしま学力向上支援Webシステム」の計画的かつ継続的な活用(家庭学習での取組も含む。)を推進するよう、各学校への指導を徹底する。
○ 小規模校の交流学習を推進し、多様な意見・考え方に触れたり、自分の考えをまとめて表現したりする機会を設定するとともに、成果と課題の集約を行い、実施方法や内容についての改善を推進する。
○ 複式学級における理科学習の指導方法について、効果的な指導法の共有や情報提供を行い、理科の授業力向上を図る。
また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
【小学校】(国語科) 的確に読み取り、大切な言葉を落とさずに適切に表現する活動に取り組ませる。目的を明確にした文章を書く活動に取り組ませる。
(算数科) 数字の意味や式の意味を確実に押さえて、考えを説明する活動を徹底させる。また、与えられた情報を見出した関係性を用いて問題を解決する活動に取り組ませる。図形やグラフ等から必要な情報を読み取る活動に取り組ませる。
【理科】 観察・実験から得られた結果についての考察を確実にし結論(まとめ)を導き出す流れを定着させるとともに、自分の言葉で説明したりまとめたりする活動を取り入れることにより、学習事項の定着を図らせる。

【様式1】

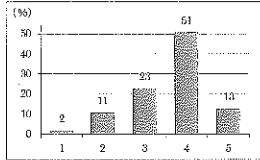
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

南種子町教育委員会

【小学校】
〔国語A〕



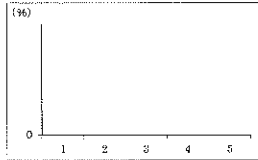
〔国語B〕



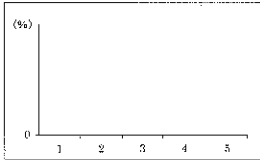
〈課題〉

- ・A問題においては、4、5段階が71%、1、2段階が6%であり、基礎的・基本的な内容については、身に付いている児童が多い。
- ・B問題においては、4、5段階が64%、1、2段階が13%であり、概ね身に付いている児童が多い。
- ・全国や県と同じく、短答式・記述式問題の正答率が低い傾向にある。

【中学校】
〔国語A〕

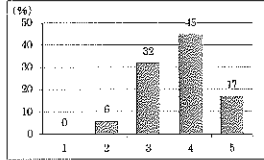


〔国語B〕

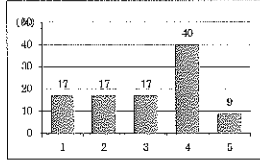


〈課題〉

〔算数A〕



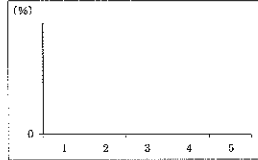
〔算数B〕



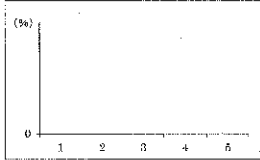
〈課題〉

- ・A問題においては、4、5段階の合計は62%だが、5段階の割合が17%と少ないことから、基礎的・基本的な内容が完全には定着していない児童が多いことが予想される。
- ・B問題においては、1、2段階の児童が34%と多く、活用する力が十分でない。
- ・全国や県と同じく、数量関係について正答率がやや低い状況にある。

〔数学A〕

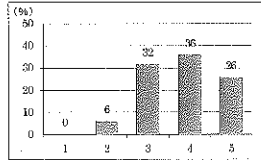


〔数学B〕



〈課題〉

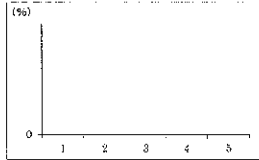
〔理科〕



〈課題〉

- ・4、5段階の割合が62%であり、概ね学習内容を理解できている児童の割合が多い。
- ・全国や県と同じく、記述式問題の正答率が低い傾向にある。
- ・科学的な思考・表現に関連する問題の正答率が低い傾向にある。
- ・実験や観察から得た情報を整理し、考察する力が十分でない。

〔理科〕



〈課題〉

【改善策】

【今後の本町における学力向上の重点施策】

- ・各学校における「にだわりの視点」を軸にした授業力向上に向けての実践を充実させる。
- ・学力検査の誤答傾向(無解答の傾向)について分析し、「あと1問」正答数を増やすために、授業や家庭学習において習熟の場を設定する。
- ・小中一貫教育を推進し、発達の段階に合わせながら、主体的・対話的で深い学びを展開できるよう授業改善を図る。
- ・子供たちが十分に実力を発揮することができるよう、全国学力・学習状況調査や鹿児島学習定着度調査の過去問題、かごしま学力向上支援Webシステムの評価問題等の効果的な活用を図る。

【国語科における改善策】

- ・「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を図り、国語科だけでなく、他教科においても言語活動を積極的に取り入れ、目的や意図に応じて考えたことを説明したり、文章に表したりする機会を十分に設ける。

【算数科における改善策】

- ・本町で作成している、小1から中3までの算数・数学の関数領域における系統表や習熟問題なども活用しながら、子供たちのつまずきに応じて個別支援の充実を図る。

【理科における改善策】

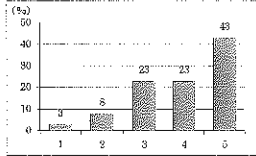
- ・実験や観察を予想する場や予想と結果を検証する場を設定し、科学的な思考力・表現力を向上させるための取組の充実を図る。

【様式1】

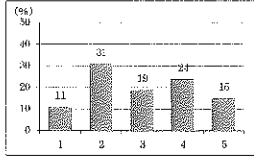
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

屋久島町教育委員会

【小学校】
【国語A】



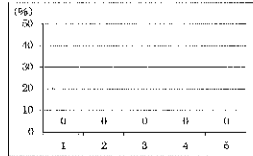
【国語B】



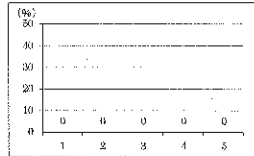
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は66%であるが、B問題では39%であることから、基礎・基本は、身に付いているが、それを活用する力は十分ではない。(Bの2が31%と高い)
- ・思考力を働かせ目的や意図に応じて自分の考えを整理して書いたり、漢字を書いたりすることが課題である。
- ・B問題では特に「読むこと」が低い数値となっている。
- ・問題文の趣旨を理解できる力の育成が課題である。

【中学校】
【国語A】

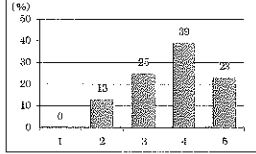


【国語B】

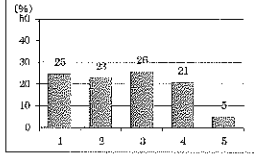


〈課題〉

【算数A】



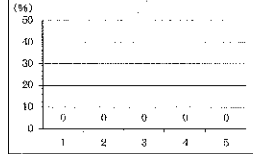
【算数B】



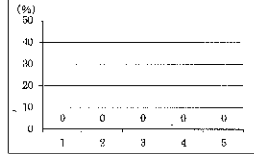
〈課題〉

- ・算数Aでは4・5の児童が62%を占める。Bでは5の児童は5%と極端に少なく、1～4は20%台を占めている。
- ・思考力を働かせて示された式や説明、図、グラフ等を読み取って自分の考えを基に判断する力や、その根拠や理由を筋道立てて記述したりする力に課題がある。
- ・長文や資料問題を、読み通し要点を絞る力の育成が課題である。

【数学A】

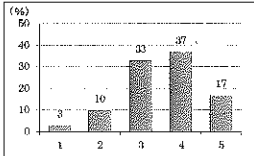


【数学B】

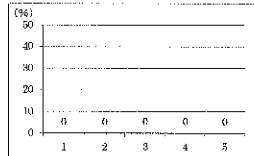


〈課題〉

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、3、4段階は70%であるが、5段階は17%、1段階は3%である。中間層の上位層への底上げが課題である。
- ・記述式の問題や観察・実験の技能の習得について課題がみられる。また「書く」ことに対する無解答率が高くなっている。
- ・基本事項を活用する力の育成が課題である。

〈課題〉

【改善策】

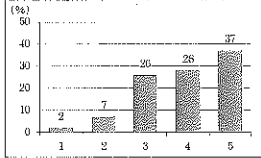
- ※ 各学校に正答率、無解答率、誤答傾向等の分析をしっかりと行わせ、実態の把握と重点課題を明確にさせる。
 - ※ 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
 - 校内研修、研究授業等において、「学びの組織活性化推進」プロジェクトや本町の指導主事やコアティーチャーも活用し、継続的な学校訪問を通じた授業づくりの支援や指導・助言を行うとともに近隣の中学校の交流を通して研修を深める。
 - 個に応じた学習活動を充実させるために「かごしま学力向上支援Webシステム」の評価問題の活用について、各学校への指導を徹底する。
 - 以下の事項を管理職研修会や各学校における研修会等で指導し、取り組ませる。また、各学校でPDCAサイクルの充実が図られているか、見届けまで確実に実行する。
 - ・振り返りの場の時間の確保など、授業の確認と徹底を図る。(授業改善が学力向上に結びつく)
 - ・基礎的・基本的な知識及び技能の反復練習の充実と思考・判断する場(活用問題の活用)の設定。
 - ・全職員が納得して、徹底して取り組む視点を設定する。【組織的、継続的な実践】
 - ・ゴール(長期)と段階的な数値目標(短期・中期)を設定する。(達成目標の設定)
 - ・定期的な評価し、改善を図る。【PDCAサイクルにおける実践】
 - ・中学校区ごとに基本的学習習慣系統表を活用させ、学習の基盤づくりを徹底する。
 - ・「授業を見る視点」を積極的に活用させ、分かる・楽しい授業の実践化を図る。(校内研修、学校訪問での指導)
- 【小学校】 (国語科) 自分の考えや伝えたいことを整理して書く活動や漢字の書き取りなど習慣化と定着を図る。
(算数科) 思考力を活用して問題解決の過程を説明し、表現する活動を意図的に位置付けさせる。
(理科) 基礎的・基本的事項を活用して、活用する問題が取り組めるように、普段から思考する場を設定するなど授業法改善を図る。

【様式1】

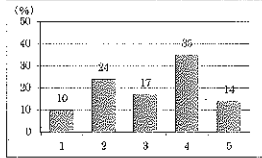
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

奄美市教育委員会

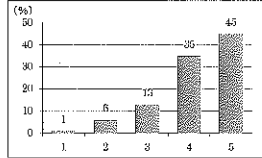
【小学校】
【国語A】



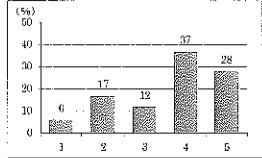
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



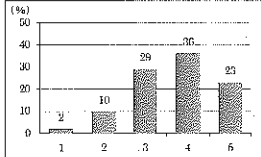
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は65%であるが、B問題では49%となっており、知識はありながらも、活用することについては、まだ不十分な児童がいる。また、昨年度と比較して4、5の割合が低下している。
・文章や図表等を読んだ後に、自分の考えを根拠や理由を明確にしてまとめることが課題である。

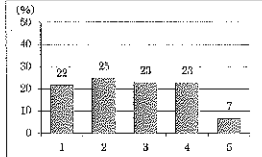
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は80%であるが、B問題では65%と低く、学習事項を活用できていない。
・B問題では、記述式の問題に対して無解答率が高い。文章の表現に対する自分の考えをまとめたり、理由を根拠と見通しをもった上でまとめたりする学習を進めていく必要がある。

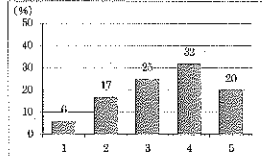
【算数A】



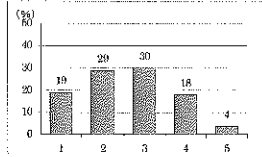
【算数B】



【数学A】



【数学B】



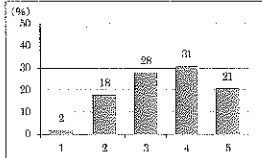
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は59%であるが、B問題では30%と大きく低下している。B問題の上位層が国語よりも下回っており、下位層がかなり多いことから、上位層の児童の数を伸ばす必要がある。
・計算や表・グラフの問題、平均値を求める問題に対して、苦手意識をもつ児童がいる。

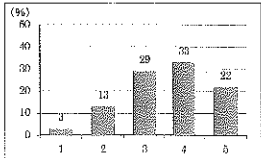
〈課題〉

・5段階の分布状況では、A問題の4、5段階は52%であり、全体的に低い状況である。また、B問題の4、5段階は22%であり、学習事項を定着させる取組が急務である。
・全体的に誤答率が高い。「数と式」や「関数」の領域が特に正答率が低い。また、表やグラフを活用した説明や、証明などの記述式の問題における無解答率が高い。

【理科】



【理科】



〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階は52%であるが、1、2段階は20%であり、5分の1の児童が該当する。下位層の児童に対する学習事項の確実な定着が必要である。
・実験結果をまとめる問題や用語を答える問題等で、誤答率・無解答率が高い。苦手意識をもつ児童に対する指導の工夫・改善が必要である。

〈課題〉

・5段階の分布状況では、4、5段階は55%である。特に地学的領域の通過率が低く、この状況は1月に行われた鹿児島学習定着度調査の結果と重なる。
・必要な語句を用いて説明する問題や、計算で濃度を答える問題等で、誤答率・無解答率が高い。学習事項定着のための指導法の工夫・改善が必要である。

【改善策】

○指導主事の定期的な学校訪問等を通して、授業改善に向けた具体的・重点的な指導を実施する。各学校における課題解決のための具体的な方策がどの程度実施されているかを的確に把握する。その際、本市の「学力向上対策・授業改善5つの方策」を徹底して実践させるとともに、以下について各学校に取り組ませる。

【小学校】

- （国語科） ・ 自分で考えたことを伝えたり、話し合ったりする相互解決の場の確実な確保と自分の言葉によるまとめの確実な実施
- （算数科） ・ 文章や絵図を使って、自分で考えたことをまとめ、算数的言語を使って説明する活動の重視
- ・ 机間指導の充実による個々の状況の把握と学習のまとめ及び見届けの確実な実施
- （理 科） ・ 学習内容の確実な定着と習熟を図る時間の設定

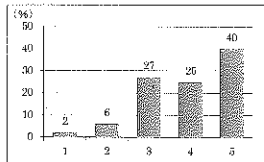
【中学校】

- （国語科） ・ 情報を的確に読み取り、練り合うことを通して、理由や根拠を明確にして自分の考えを文章等でまとめる活動の設定と確実な実施
- （数学科） ・ 学ぶことの目的意識をもたせる学習課題の設定と基礎・基本の確実な定着を図る繰り返し学習の実施
- ・ 自力解決や相互解決における判断の根拠や理由を明確にし、数学的な表現を用いて説明する活動の設定
- （理 科） ・ 学習事項を確実に定着させるため、まとめ・振り返り活動の充実と、補充指導の実施

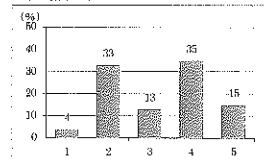
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

瀬戸内町教育委員会

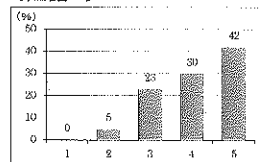
【小学校】
【国語A】



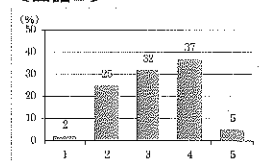
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



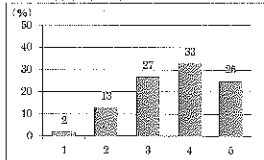
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では3の段階の児童がやや多いが、概ね基礎・基本の定着が見られる。B問題では2の段階の児童が多く、活用する力がやや不十分である。
- ・A問題では、主語と述語との関係などに注意して文を書くことや、漢字を文の中で正しく使うことが課題である。
- ・B問題では、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることが課題である。

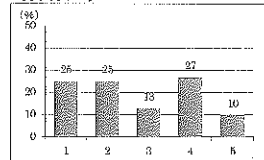
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では3の段階の生徒がやや多いが、概ね基礎・基本の定着が見られる。B問題では、2、3の段階の生徒が多く、活用する力が不十分である。
- ・A問題では、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うこと、話合いの話題や方向を捉えて的確に話すことが課題である。
- ・B問題では内容を整理して書くことや、文章とグラフとの関係を考えてながら内容を捉えることが課題である。

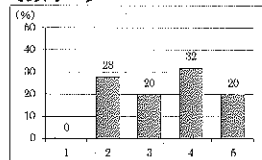
【算数A】



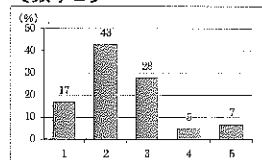
【算数B】



【数学A】



【数学B】



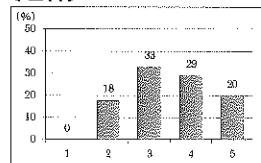
〈課題〉

- ・6段階の分布状況について、A問題では3の段階の児童がやや多いが、概ね基礎・基本の定着が見られる。B問題では1、2の段階の児童が多く、活用する力が定着していない。
- ・A問題では、小数の除法の意味についての理解や円周率の意味についての理解が課題である。
- ・B問題では、メモとグラフを関連付けて記述することや、グラフから読み取ることができることを適切に判断することが課題である。

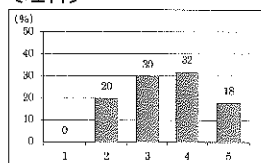
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、2、3の段階の生徒が約半数おり、基礎・基本の定着が不十分である。B問題では、1、2の段階の生徒が半数以上おり、活用する力が定着していない。
- ・A問題では、一次関数の意味を理解することや、多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解することが課題である。
- ・B問題では問題解決の方法を数学的に説明することや、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することが課題である。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、3の段階の児童がやや多いが、概ね定着が図られている状況にあると言える。
- ・より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述することや、物に水を溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用すること、より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察することが課題である。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、2、3の段階の生徒がやや多く、定着が不十分であると言える。
- ・植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘することや、風向の観察方法や記録の観察の仕方に関する知識・技能を活用すること、神経系の働きについての知識やシュミレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘することが課題である。

【改善策】

今後は、以下の示す事項について、本町の学力向上施策の重点として取り扱っていく。

- 各校に結果を十分分析させて児童生徒の実態をしっかりと捉えさせ、補充指導を徹底する。また、各校の「学力向上アクションプラン」や地区の「授業充実の3ポイント」を徹底し、学力向上に向けた全校体制での実効性ある取組の具体策を検討させた上で、見届けを確実にに行わせる。
- 年間を通じた校内研修における研究授業の機会も含め、より積極的に質の高い授業づくりへの指導・助言を継続的に行う。
- 各教科における基礎的・基本的事項の確実な定着も視野に入れつつ、「かごしま学力向上支援Webシステム」や各校に配備した学習ソフトの積極的活用を継続的に指導していく。特に、活用問題についても繰り返し練習をさせ、見届けます。また、以下の事項を、各学校で取り組ませる。

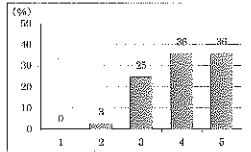
【小学校】
 (国語科)相手の話を自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたこと等を整理して自分の考えをまとめる場を設定する。
 (算数科)目的に応じて資料を集めて分類整理し、円グラフや帯グラフを用いて表したり特徴を調べたりする場を設定する。
 (理科)自然の事象・現象を変化や規則性を捉え、これまでに獲得した知識を適用する場を設定する。

【中学校】
 (国語科)事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり描写を工夫したりして書く場を設定する。
 (数学科)一次関数について理解するとともに、関数の関係を見だして表現したり考察したりする能力を養う場を設定する。
 (理科)習得した知識・技能を日常生活と関連した他の領域に活用して、自然の事象・現象を多面的・総合的に捉える場を設定する。

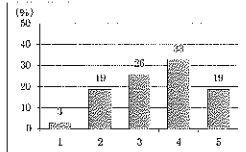
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

龍郷町教育委員会

【小学校】
【国語A】



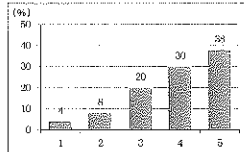
【国語B】



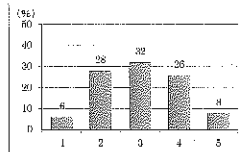
〈課題〉

- ・A問題では、昨年度と比べ、5の段階の割合が低くなり、3の段階の割合が高くなっていることから、基礎・基本の定着に若干の課題がある。
- ・B問題では、昨年度と比べ、4、5の段階の割合が若干高くなっている。
- ・A・B問題とも「書くこと」の領域の正答率が低く、無解答率が高くなる傾向にある。特に、文章の構成であったり、条件に合わせて理由を述べたりする内容に課題がある。

【中学校】
【国語A】



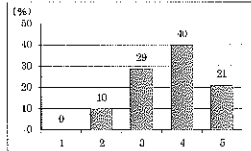
【国語B】



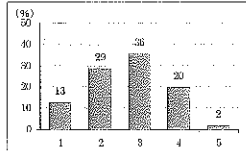
〈課題〉

- ・昨年度と比べ、下位層の割合が高くなり、全体的に底上げが必要な状況にある。
- ・A問題では、読解力に課題があり、それが「話すこと」や「聞くこと」にも影響している。また、話し合いの方向や意見と理由の違いに気付きの確に話し合うことに課題がある。
- ・B問題では、「読むこと」の領域において、文章の構成や展開、情報を踏まえ、内容を理解したり、考えをもったりすることに課題がある。

【算数A】



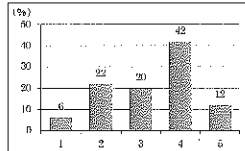
【算数B】



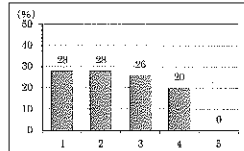
〈課題〉

- ・A問題では、昨年度と比べ、5の段階の割合が極端に低くなり、2、3の段階の割合が高くなっていることから全体的な底上げの必要がある。
- ・B問題では、分布の傾向は昨年度と変わらないものの、依然として1、2段階の下位層が多く、更に全国の平均正答率との差が開いている状況である。
- ・数量の関係を捉え、それを式に表したり、問題場面に適応して判断したりすることに課題がある。特に「割合」の意味や、もとにする量と比べる量の関係をとらえることを苦手としている。

【数学A】



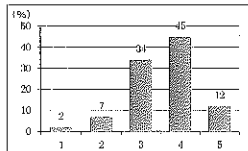
【数学B】



〈課題〉

- ・A問題では、昨年度と比べ、4、5の段階の割合が若干高くなっているものの依然として、2、3の段階の底上げが必要である。
- ・B問題では、上位層が不在となり下位層が増加していることから全体的な底上げが必要である。
- ・「数と式」「関数」「資料の活用」領域の基礎的・基本的な技能に加え題意の読み取りに課題がある。また、確率や割合などについて、数学的な表現を用いて理由を説明したり、図形について証明したりすることに継続的な課題となっている。

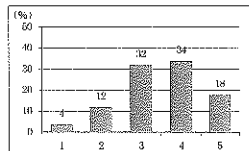
【理科】



〈課題〉

- ・全体的には基礎・基本の定着が図られているが、5の段階が低いことから上位層の伸びに課題がある。
- ・実験・観察において、予想が確かめられた場合の結果を見通したり、実験結果をもとに考察したりするなど、実験・観察の構想や結果に基づいた考察に課題がある。

【理科】



〈課題〉

- ・H27実施時と比べ、2、3の段階より4、5の段階に達する割合が増えているので全体的に向上が図られているが、下位層の更なる底上げが必要である。
- ・基本的な器具等の操作など基礎・基本の内容の定着に課題がある。
- ・実験など科学的に探究する際の、条件制御や結果等の考察、新たな疑問を見いだすこと、更にその説明に課題があり、無解答率も高い。

【改善策】

どの教科においても小中の課題が共通していることから、以下のことを、授業を振り返りながら改善していく視点として、各学校だけでなく、本町の教科部会や小中連携の場でも共通して実践していく。

【小中共通】

【国語】

・理由を付けたり、伝える内容の構成を工夫したりしながら自分の考えをもとに学び合う場を取り入れて実践していく。

【算数・数学】

・数学的現象から、見通す(解決の見通し、方法の見通し)段階の指導方法を改善していく。

・数学的な表現を通して、自分の考えを伝えたり、他者の考えを解釈したりしながら学び合う場を取り入れて実践していく。

【理科】

・実験・観察を確実に実施し、授業が仮説を検証するための方法→得られる結果→導き出される結論→新たな課題の見いだしといった問題解決の過程を踏まえているかを振り返り、改善していく。

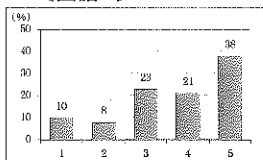
・結果を分析し、解釈する場面で、効果的な言語活動を取り入れて実践していく。さらに、これらと「学力向上アクションプラン」の整合を図り、効果的な授業改善・学力向上を図っていく。また、かこしま学力向上支援Webシステムの問題の活用を図り、授業改善の評価等につなげていく。

【様式1】

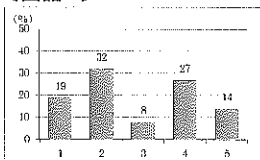
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ、課題、改善策)

喜界町教育委員会

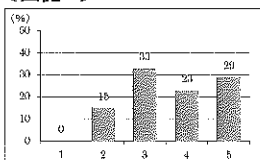
【小学校】 【国語A】



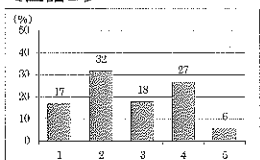
【国語B】



【中学校】 【国語A】



【国語B】



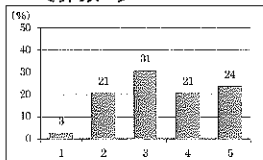
〈課題〉

- ・5段階分布状況についてA問題の4、5段階はおよそ60%であり、昨年度に比べ30ポイントあまり低くなった。また、1段階が10%あり、基礎・基本が定着されていない児童が見られる。
- ・B問題では、1、2段階の児童の割合が半数を超えている。目的や意図に応じて引用したり、必要な情報を整理して書いたりするなど、与えられた条件に応じて適切に考えを整理したり、文章を構成したりすることに課題がある。

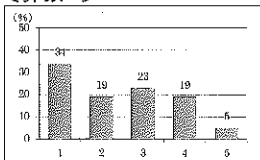
〈課題〉

- ・5段階分布状況についてA、B問題ともにばらつきが見られ、どちらにも中・下位層が多く、中・下位層をどのように引き上げていくかが課題である。
- ・B問題においては、無解答率が全国平均の2倍以上ある。特に目的に応じて文章を読み、内容を整理して書いたり、文章の展開について自分の考えをもったりする問題に大きな課題が見られる。

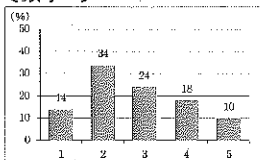
【算数A】



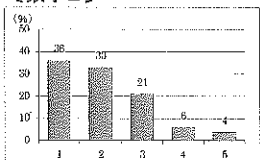
【算数B】



【数学A】



【数学B】



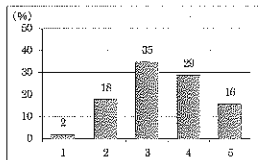
〈課題〉

- ・5段階分布状況について、A、B問題ともにばらつきが大きく、中・下位層が多く見られる。特にB問題の34%を占める1段階の児童にどのように思考力・表現力を身に付けさせるかが課題である。
- ・B問題については、1、2段階で半数を超えている。無解答率は全国平均よりも低いもの、示された考えをもとにしたり、グラフなどの情報を関連付けたりして解釈し、記述する問題に課題が見られる。

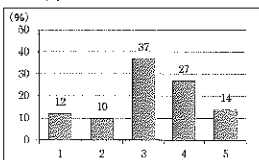
〈課題〉

- ・5段階分布状況について、A、B問題ともに下位層が多く、上位層が少ない。基礎・基本及び活用する力ともに十分に定着していないことが課題である。
- ・無解答率が全国平均の1.5倍以上ある。特に構想を立てて説明したり、与えられた条件で新たな事柄を見いだし、説明したりするなどの記述問題に大きな課題が見られる。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・無解答率は、全国平均の4分の1である。しかし、1、2段階の下位層が20%を占めており、基礎・基本の定着を図る手立てを講じる必要がある。
- ・実験結果をもとに分析して考察するなどの記述の問題に大きな課題が見られる。

〈課題〉

- ・5段階分布状況について、1、2段階の生徒が22%いることから、学力の底上げを図る必要がある。
- ・科学的な思考・表現だけでなく、自然事象についての知識・理解についても課題が見られることから、基礎的・基本的事項についても徹底させる必要がある。
- ・化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明するなどの記述の問題に課題が見られる。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策実施の重点として取り扱う。

- 毎時間の授業の教材研究を効率的に行い、充実させるために、日常の授業づくりから積極的に関わる。
- 主体的、対話的で深い学びのある授業が各学校で実現されるように、各学校のアクションプランで掲げられている重点事項が全教諭で徹底されているか定期的に授業を参観し、授業参観シートを活用して指導を徹底する。
- 定着が不十分であった問題については、単元終了ごとに過去問や「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用した補充指導を徹底させ、定着状況を把握し、授業改善や個別指導に生かすなど、各学校でPDCAのサイクルが図られているか定期的に見届けを行う。

また、以下の事項を、管理職研修会や町教科部会等で指導し、各学校で取り組ませる。

【小学校】
 (国語科) 目的や意図に応じて自分の考えを適切に表現する言語活動を充実させた授業ができるようにさせる。
 (算数科) 理由や根拠を適切に表現する活動を徹底させる。
 (理科) 結果を分析、考察する際に十分な言語活動を取り入れさせる。

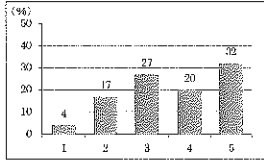
【中学校】
 (国語科) 目的や意図に応じて自分の考えを適切に表現する言語活動を充実させた授業ができるようにさせる。
 (数学科) 数、式、グラフ等の相互の関係を考えたり、説明したりする授業ができるようにさせる。
 (理科) 発問や板書を工夫して生徒の思考を促し、まとめは自分の言葉で記述させるようにする。

【様式1】

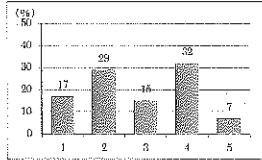
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

徳之島町教育委員会

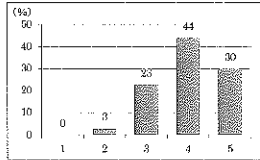
【小学校】
【国語A】



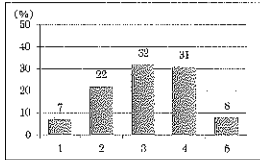
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



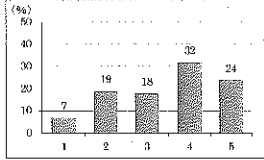
〈課題〉

- ・国語Aは、4、5の割合が昨年比-35% (H30:52%, H29:87%)と大幅に下がっていることから、定着を十分に図る必要がある。
- ・国語Bは、4、5の割合が昨年比+7% (H30:39%, H29:32%)と上がり、無解答率も減少しているもの、グラフが谷型となっていることから、二極化が進んでいることが分かる。
- ・領域としては、「書くこと」の正答率が上がった一方、「話すこと・聞くこと」と「文の中で該当漢字を使う」ことに課題が見られた。

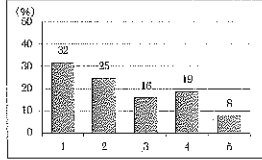
〈課題〉

- ・国語Aは、4、5の割合が昨年度同様74%と高く、基礎的・基本的な学習内容は、概ね定着が図られている。
- ・国語Bは、3、4の割合が昨年比+16% (H30:63%, H29:47%)と大幅に底上げが図られた一方で、5の割合が-12% (H30:8%, H29:30%)と落ち込んでいる。
- ・領域としては、「書くこと」の正答率は、高いものの「話すこと・聞くこと」と「読むこと」が全国比-10%ほど低い状況にある。

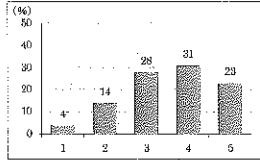
【算数A】



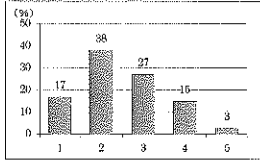
【算数B】



【数学A】



【数学B】



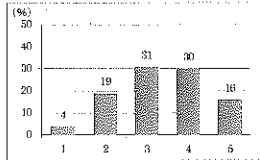
〈課題〉

- ・算数Aは、4、5の割合が昨年比-24% (H30:56%, H29:80%)と大幅に下がっており、基礎的・基本的な学習内容の定着を十分に図る必要がある。
- ・算数Bは、1、2、3の割合が全体の73%を占めており、昨年度よりも更に思考力・判断力・表現力等の低下が深刻な状況にある。
- ・領域としては、「量と測定」「図形」が全国を上回った一方、「数と計算」「数量関係」については、大きく下回っている。

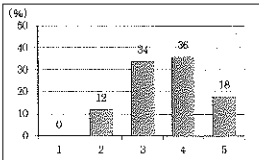
〈課題〉

- ・数学Aは、3、4、5の割合が高く、昨年比+12% (H30:82%, H29:70%)と底上げが図られている。
- ・数学Bは、1、2、3の割合が82%を占めており、昨年度とほぼ同じである。まずは、下位層の底上げを図る必要がある。
- ・領域としては、「資料の活用」の正答率が27.9%と最も低く、「記述式」の問題の正答率が16.9% (全国27.9%)と低かった。多様なグラフ・図表等の活用を図る必要がある。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・理科は、「知識」に関する問題の正答率が全国比を4%上回った一方、「活用」に関する問題は、全国比-5.2%と下回った。
- ・評価の観点としては、「自然現象についての知識・理解」が90.1%と最も高く、続いて「観察・実験の技能」64.9%、「科学的な思考・表現」49.4%となっている。
- ・「記述式」の問題を苦手とする児童が多く、正答率はわずか21.2%である。(全国28.0%)

〈課題〉

- ・理科は、「知識」に関する問題の正答率が全国とほぼ同じ66%であった一方、「活用」に関する問題は、全国比-5%下回った。
- ・評価の観点としては、「観察・実験の技能」が68.5%と最も高く、続いて「自然現象についての知識・理解」が65%、「科学的な思考・表現」58.3%となっている。
- ・「記述式」の問題を苦手とする生徒が多いものの、正答率は44.6%あり、「短答式」も70.4%と高い。

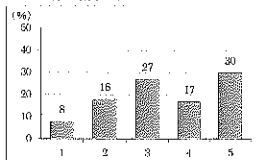
【改善策】

- 町学力向上推進協議会の機能化
 - ・学力向上に効果的な取組を行っている代表校の事例発表や家庭学習の在り方等について、紹介・協議する時間を設定する。
 - ・各校管理職や学力向上担当教諭、指導主事を中心とした模擬授業方式による授業研究会や参加型ワークショップ形式の対策会議を展開する。
 - ・PTA代表にも出席していただき、家庭学習の在り方について、学校と家庭が共に考えていく時間を設定する。
- 「学びの組織活性化」推進プロジェクトの効果的な活用
 - ・県教育庁義務教育課、県総合教育センター、大島教育事務所からの支援を受け、まずはモデル校の研修の工夫・充実を図る。
 - ・学力向上に向けたモデル校の取組を町内の学校に広く紹介していく。研修体制の確立と授業力の向上、学力の底上げを図る。
- 授業充実の3ポイント(目標の明確化、山場の設定、確実な見届け)の徹底
 - ・研究指定校を中心に指導案作成段階から授業づくりに関わり、主体的・対話的で深い学びの具現化を教育委員会と共に検討していく。
- 「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用と重点課題への取組の徹底
 - ・授業場面や家庭学習等における積極的なWeb問題の活用を一層推進していく。
 - ・一度だけではなく、できるまで何度も繰り返しWeb問題に取り組ませよう活用の見届けと確かめを行う。

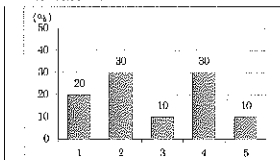
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

天城町教育委員会

【小学校】
〔国語A〕



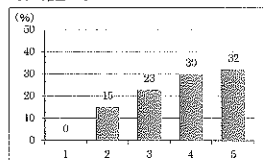
〔国語B〕



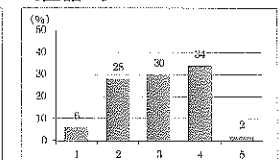
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の1～3の段階が53%であることから、4、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1～3の段階が60%であることから、4、5の段階へ向けて活用する力の定着が求められる。
・目的に応じて、文章の中から必要な情報を捉えたり、登場人物の心情について、情景描写をもとに捉えたりすることに課題がある。

【中学校】
〔国語A〕



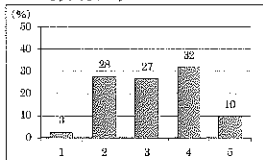
〔国語B〕



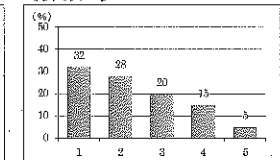
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の1～3の段階が38%であることから、4、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1～3の段階が64%であることから、4、5の段階へ向けて活用する力の定着が求められる。
・段落が文章全体の中で果たす役割を捉えたり、話合いの話題や方向を捉えて的確に話したりすることに課題がある。

〔算数A〕



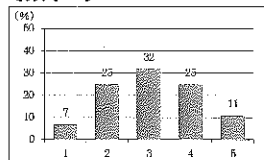
〔算数B〕



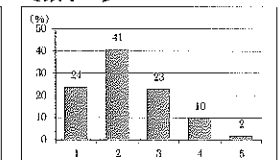
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の1～3の段階が58%であることから、4、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1、2の段階が60%であることから、3の段階以上へ向けて活用する力の定着が求められる。
・除法で表すことができる二つの数量の関係を理解したり、折れ線グラフから変化の特徴を読み取ったりすることに課題がある。

〔数学A〕



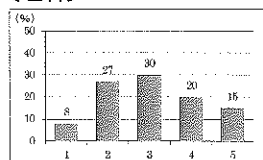
〔数学B〕



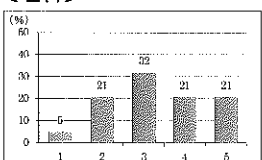
〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の1～3の段階が64%であることから、4、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。また、B問題の1、2の段階が65%であることから、3の段階以上へ向けて活用する力の定着が求められる。
・関係を表す式や等式の性質を用いて、目的に応じて変形したり、空間における平面と直線との位置関係を理解したりすることに課題がある。

〔理科〕



〔理科〕



〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の1～3の段階が65%であることから、4、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。
・示された事象について適切に説明されている内容を選択したり、複数の情報を関係付けながら、分析して考察したりすることに課題がある。
・実験結果から電流の流れ方について妥当な考えを選択したり、ろ過の適切な操作方法を理解したりすることに課題がある。

〈課題〉

・5段階の分布状況について、A問題の1～3の段階が58%であることから、4、5の段階へ向けて基礎・基本の定着が求められる。
・化学変化したモデルを基に説明したり、神経系の働きについて理解したりすることに課題がある。
・表から電流の値を読み取ったり、アルミニウムと水の温度変化の関係から新たな問題を考えたりすることに課題がある。

【改善策】

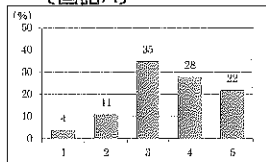
今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
○「アクションプラン」や「かごしま学力向上支援Webシステム」の活用計画や実施状況について、指導主事が定期的に学校訪問し、指導・助言を行う。
○「授業充実の3ポイント」や「天城町授業づくりの目」をもとにした授業について、指導主事が町教委訪問や校内研修等で指導・助言を行う。
○「かごしま学力向上支援Webシステム」や「諸学力調査の過去問題」等、学力がどれだけ定着したかを点検する取組を実施し、その結果を学校と教育委員会と共有する。
○調査問題を経て、学力向上に向け、より実効性のある取組とは何かを精査し、「アクションプラン」や「各校の学力向上策」に反映させる。
また、以下の事項を、管理職研修会等で指導し、各学校で取り組ませる。
【小学校】(国語科) 必要な情報を捉える視点を共有させたり、考えの根拠を問い返したりする指導を行う。
(算数科) 複数の考えの共通点や相違点を見い出させたり、学んだことをもとに新たな問題へ取り組ませたりする指導を行う。
(理科) 実験結果から妥当な考えを考察させたり、複数の考えから妥当な考えを吟味させたりする指導を行う。
【中学校】(国語科) 文章や段落の役割を考えさせたり、話合いの目的に応じて発言させたりする指導を行う。
(数学科) 式や図など多様な表現様式を関連させたり、実際の操作を通して理解させたりする指導を行う。
(理科) 考察した根拠を問い返したり、学んだことから新たな疑問や興味を生じさせたりする指導を行う。

【様式1】

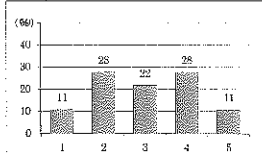
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ、課題、改善策)

伊仙町教育委員会

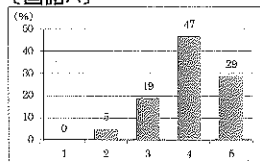
【小学校】
〔国語A〕



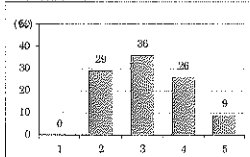
〔国語B〕



【中学校】
〔国語A〕



〔国語B〕



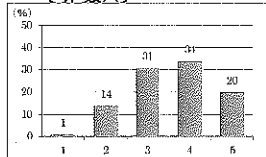
〈課題〉

- ・A問題の4、5段階は50%であるが、B問題では39%であることから、知識を活用する力が十分でない。
- ・A問題の課題であった「話す・聞く」領域は改善しているが、敬語、主述の関係、「製造」など言語に関する事項に課題がある。
- ・B問題は、昨年度より差が広がったが、課題の「書く」領域に改善の兆しが見られた。複数の資料を読む、自分の考えを明確にしながらか読む問題に課題がある。
- ・無解答率は、B問題で後半の問題ほど高くなる傾向にある。

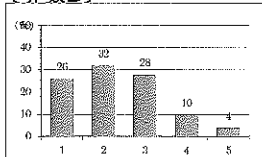
〈課題〉

- ・A問題は76%、B問題は35%が4、5段階となっている。B問題は、昨年度より上位層が減少している。
- ・A問題は、構成や展開などに相応しい内容を選択する問題や語句の意味を正しく選択する問題、敬語、歴史的仮名遣いに課題がある。
- ・B問題は、話す聞く能力の質問の意図を捕らえる問題、読む能力の語った人物がだれかを選択する問題に課題がある。
- ・無解答率は減少している。書く能力の課題も改善傾向にある。

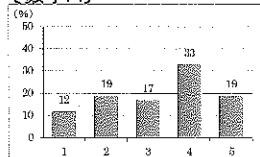
〔算数A〕



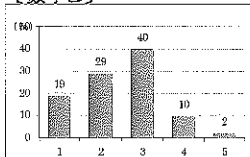
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



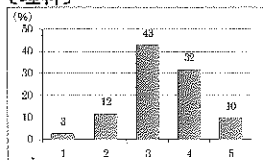
〈課題〉

- ・A問題においては54%が4、5段階であるが、B問題においては、14%にとどまっている。B問題は、58%が1、2段階であり、2極化傾向が見られる。
- ・A問題は、単位量あたりの大きさの理解、空間中のものの位置を表現することなど例年と同じ傾向に課題がある。
- ・B問題は、図形の構成要素や性質を基に指定部分の和が360°であることを説明すること、量と測定、式と計算に課題がある。

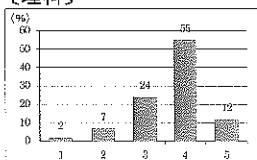
〈課題〉

- ・A問題においては4、5段階が52%、1・2段階が31%である。B問題は、1、2段階が約過半数を占めることが課題である。
- ・A問題は、連立方程式、立式、見取図、空間図形、関数の増加量やグラフを選ぶ問題などの知識理解が大きく低い。
- ・B問題は、列車の通過時間をグラフから導く問題、情報を選択し処理する問題などの数学的な技能の領域が大きく低い。

〔理科〕



〔理科〕



〈課題〉

- ・A問題の4、5段階は42%である。1、2段階は15%である。
- ・「知識」に関する問題は、県との差はほとんどない。
- ・「活用」に関する問題は、水の働きによる侵食について、他者の予想を基に相応しい検証実験の方法を構想する問題、食塩水を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題、食塩水を熱する実験の結論を記述する問題など、いずれも科学的な思考力・表現力に課題がある。

〈課題〉

- ・4、5段階が67%、その次が3段階の24%である。
- ・物理・生物・地学の領域で県と大きな差がある問題がある。「物理」では、光の反射の幾何学的な規則性の知識の活用、「生物」では、神経系の働きとその働きを測定する実験の計画、「地学」では、容器に入れた植物の温度変化や容器の湿度変化の原因の立論など、いずれも科学的な思考・表現の問題に課題がある。

【改善策】

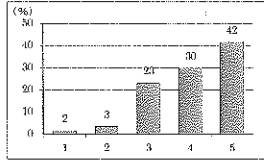
- 今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱い、管理職研修会や教務主任等研修会で指導し、各校で取り組ませるとともに、教育委員会部局として各種施策を実施していく。
- 〔共通重点事項〕
- ・授業充実の3ポイント(「目標の明確化」「山場の工夫」「確かな見届け)」を確実に満たす授業づくり。
 - ・町学力向上推進協議会の重点「問題解決的めあての設定とまとめの整合」、振り返り活動の充実。
 - ・学力向上アクションプランの見直しとプランを基にした校内研究授業の授業研究の確実な実施。
 - ・「良問に学ぶ日」の設置、充実を図るとともに、「かごしま学力向上支援Webシステム」問題の繰り返し活用。
- 〔国語科 重点〕
- ・漢字力向上及び俳句、詩の学習の充実
 - ・家庭的学習の充実を通じた読書習慣の確立(長文読解の土台の力の育成)
 - ・授業で身に付ける学習内容の明確化とふさわしい言語活動を用いた、習得と活用の授業づくり
 - ・主体的・対話的で深い学びの展開に資する思考力を使う「学び合い」活動の実現
- 〔算数・数学科重点〕
- ・提示された事象や過去の学習経験との対比から課題を明確にもって、かつコンパクトな導入
 - ・授業後半の10分間における習熟の時間の位置付けと個に応じた指導の充実
 - ・図や表、グラフの表す意味を着実に読み取る力の育成
 - ・読み取ったことを基に自分の考えを表現したり、証明したりする力の育成
- 〔教育委員会施策〕
- ・伊仙町学力向上プログラム(主要6事業)を通じた教育環境の充実と、指導力向上体制の構築
 - ・町学力向上推進協議会の運営体制の見直し(指導力向上に向けた町内研究会の枠組みの見直し)
 - ・研究指定校の研究を通じた、授業モデルの提示
 - ・教育IT事業、指導力向上事業等の各種事業の充実

【別紙様式】

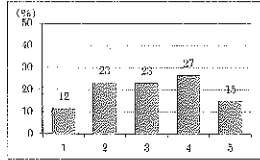
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

和泊町教育委員会

【小学校】 【国語A】



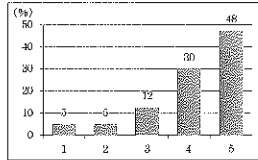
【国語B】



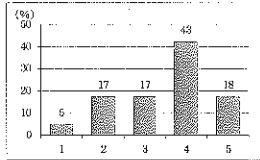
〈課題〉

- ・5段階の分布状況からA問題の4, 5段階は72%であるが, B問題では42%であることから, 基礎・基本は身に付いているがそれを活用する力が不十分である。
- ・相手に伝える文章を書く際に比較して書くことや相手に応じて敬語を使ったり, 目的に応じて読書をしたりする力に課題が見られる。

【中学校】 【国語A】



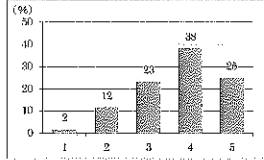
【国語B】



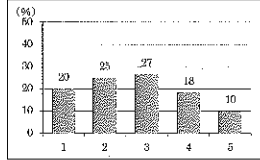
〈課題〉

- ・5段階の分布状況から, A問題では4, 5段階は78%であるが, B問題では61%である。選択式に比べて記述式の設問に対して正答率が低い傾向が見られる。
- ・文章題の大まかな理解に留まり, 正確な語句の意味や作者・筆者の意図や文章の展開に即して内容を捉える力が不十分である。
- ・行書や歴史的仮名遣いの用法が不十分である。

【算数A】



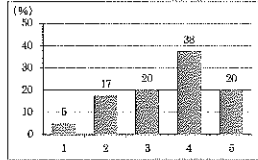
【算数B】



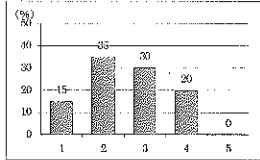
〈課題〉

- ・5段階の分布状況からA問題の4, 5段階は63%であるが, B問題では28%であることから, 基礎・基本は身に付いているがそれを活用する力が不十分であることがわかる。
- ・設問で見ると, A問題では, 百分率の問題の正答率が低く, B問題では, 情報に関連付けて論理的に考え, 数学的に表現したり, 条件に応じて選び出したりする力が十分ではない。

【数学A】



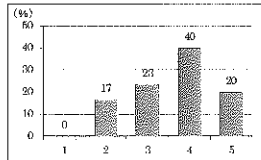
【数学B】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況から, A問題の4, 5段階は58%であるが, B問題では20%であり, 1, 2段階が50%という状況である。基礎・基本と活用のどちらにも定着が不十分である。
- ・設問ごとに見ると, 確率や一次関数, 図形の問題の正答率が低い。
- ・B問題では, 複数の情報を分類整理したり, 事象を数学的に解釈したりする力が不十分である。

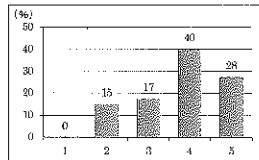
【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況から4, 5段階は60%であり, 2, 3段階が40%であることから, 上位の伸び悩みと低位・中位において定着不十分な状況が見られる。
- ・設問で見ると, 実験結果から考察して分析し, 必要な語句や数値を使って解答する力が不十分である。
- ・複数の条件を整理して, ものづくりに適用する力が不十分である。

【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分布状況から4, 5段階は68%, 2, 3段階が32%であることから, 上位の伸び悩みと低位・中位に定着の不十分な状況が見られる。
- ・設問で見ると, 変える条件から変わってしまう条件を指摘する力が不十分である。
- ・領域で見ると, 第1分野の物理的領域が低い傾向が見られる。

【改善策】

今後, 以下に示す事項について, 本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。

- 「学びの組織活性化」推進プロジェクトモデル校を中心に, 結果分析に基づいた授業改善を進めるとともに, 個々の授業者の「授業の3ポイント」の徹底度を定期的に確認し, 改善を図るよう指導助言を行う。(PDCAサイクルの活用)
- 上位層の伸びを進める指導や下位層への個別指導等の手立てとして「かごしま学力向上支援Webシステム」を全職員で必ず活用するよう指導助言する。
- 以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会, 各学校の研修等で指導し, 取り組ませる。

【小学校】(国語科) 書く活動の時間の確保と目的や相手に応じた書き方を児童が十分に考える活動を取り入れた授業改善に取り組ませる。
(算数科) 日常生活を数学的にとらえ, 解決していくために, 授業の導入や単元の終末の教材提示の在り方の改善を図る。
(理科) 実験や観察を含めて, 学習や活動の準備や環境, 諸器具の必要性(役割等)を考え, 習得させる授業改善を図る。

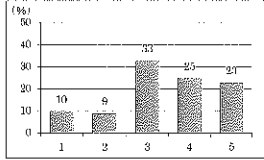
【中学校】(国語科) 作品(筆者や作者)の意図を把握し, 語句の正確な意味や叙述に即して考える授業づくりの在り方について指導する。
(数学科) 根拠に基づいた説明とそれを互いに確かめ合う活動を確保するよう指導助言する。
(理科) 生徒が自ら課題を発見し, 予想し, 解決に向けて追究する学習過程や教材研究, 学習環境づくりの徹底を図る。

【様式1】

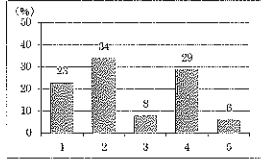
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について
(正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

知名町教育委員会

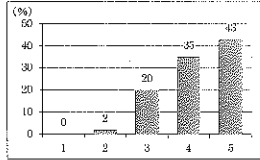
【小学校】
【国語A】



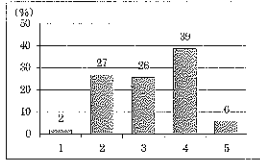
【国語B】



【中学校】
【国語A】



【国語B】



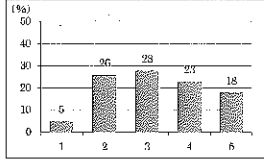
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題の4、5段階は48%と低く、基礎・基本が十分に身に付いていない状況が見られる。
- ・B問題においては二極化が見られ、読解力・表現力に個人差が大きく生じている。
- ・B問題では無解答も多い。文章を読み取る力を付けさせると同時に、書くことへの抵抗をなくす指導も必要である。

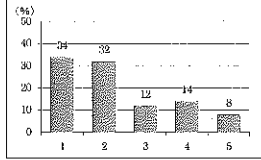
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では上位層が78%と多いが、B問題では散らばりが見られる。上位層をどのように伸ばしていくかという課題と共に、個に応じた指導の必要性もある。
- ・B問題では、記述式での誤答が多く見られた。問題の条件に沿って書くことを身に付けさせる必要がある。

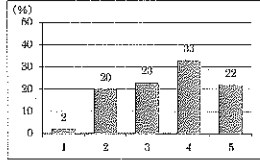
【算数A】



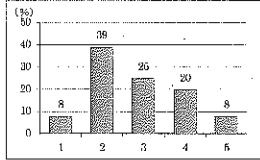
【算数B】



【数学A】



【数学B】



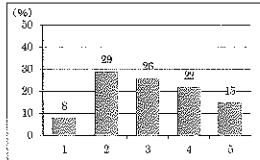
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題では全体に散らばっており、B問題では下位層が多い状況が見られる。基礎・基本の徹底が課題である。
- ・B問題では、特に数量関係の問題の正答率が低く、数学的な見方・考え方を育てていくことが課題である。

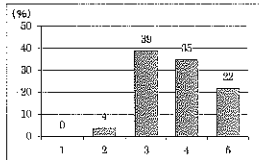
〈課題〉

- ・5段階の分布状況について、A問題は中間層が、B問題は下位層が多く、共に上位層が少ない。上位層をどのように伸ばしていくかということが課題である。
- ・A問題・B問題ともに点数のばらつきが大きいことから、個に応じた指導や支援が必要である。

【理科】



【理科】



〈課題〉

- ・5段階の分析状況については、全体的に得点の散らばりが見られ、基礎・基本的な知識・技能の習得が不十分であることが課題である。
- ・実験や観察により調べた結果をもとにして、考察して分析することに課題が見られる。
- ・科学的な言葉や概念を使用して、自然の事物・現象について考察したり説明したりすることが課題である。

〈課題〉

- ・5段階の分析状況については、4、5段階は57%とおよそ半数で、理科の基礎・基本的な知識を活用できていない状況が課題である。
- ・科学的な言葉や概念を使用して、自然の事物・現象について考察したり説明したりすることが課題である。

【改善策】

今後、以下に示す事項について、本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
○「授業充実の3ポイント」を踏まえた質の高い授業の実践のため、各学校の校内研修や公開授業を通して、授業づくりの支援や指導助言を行う。
○児童生徒の読み取る力や表現する力を育成するために、「かごしま学力向上支援Webシステム」を活用するように、各学校へ指導を行う。
○各学校の作成した「学力向上アクションプラン」に基づいた取組の充実が図られているか、見届けまで確実にを行う。また、以下の事項を、管理職研修会や教務主任会等で指導し、各学校で取り組ませる。

【小学校】(国語科) 自分の考えを筋道立てて表現できるように、ノートに書かせ、友達に伝える活動を行う。
(算数科) 授業の山場では、意見交流を通して、考えが深められるような活動・発問等を行う。
(理科) 実験結果をもとに、各グループで考察し、自分の言葉でまとめる学習に取り組ませる。

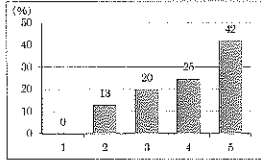
【中学校】(国語科) 長文から目的に応じた情報を取り出し、与えられた条件の中で表現する活動を行う。
(数学科) 主体的に課題解決に取り組む態度の育成と言語活動を通して、互いの考えを深められる活動を取り入れる。
(理科) 科学的な言葉や概念を言葉や図に表して、自然の事物・現象について考察したり説明したりする学習に取り組ませる。

【様式1】

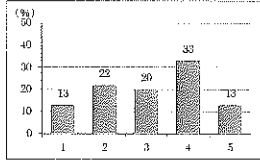
平成30年度全国学力・学習状況調査結果について (正答率分布グラフ, 課題, 改善策)

与論町教育委員会

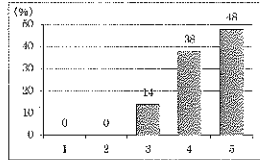
【小学校】 〔国語A〕



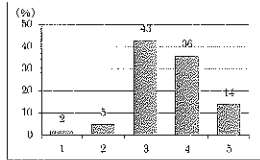
〔国語B〕



【中学校】 〔国語A〕



〔国語B〕



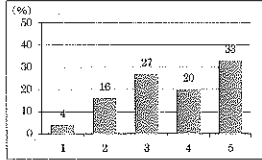
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、国語Aにおいて4、5段階が67%であるのに対し国語Bでは46%であることから、基礎基本は身に付いているが、それを活用する力が十分でない。
- ・国語Bにおいて1、2段階が35%であることから、活用において底上げを図っていく必要がある。
- ・全国を下回る問題8問中3問が漢字を問う問題であった。
- ・記述式で無解答率が10%を超える問題があった。

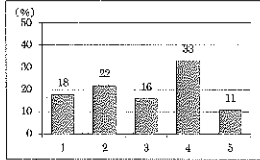
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、国語Aは4、5段階が86%であり、国語Bでは50%であることから、中位層の底上げを図る必要がある。
- ・国語Aにおいて、全国を下回った問題6問中、語句を選択する問題が3問あることや、語句の解釈を問う問題の通過率が14%であることから、語句の確実な定着を図る必要がある。

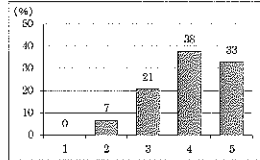
〔算数A〕



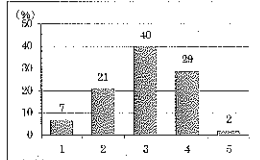
〔算数B〕



〔数学A〕



〔数学B〕



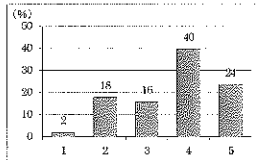
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、算数Aでは4、5段階が53%であるのに対し、算数Bでは44%となり、1段階の児童が18%もいることから、中位層に対し、各学年段階での基礎基本の確実な定着を図ると共に、活用問題への対応の仕方等について取り組んでいく必要がある。
- ・資料から分かることを問う問題の通過率が16%であった。
- ・記述式で無解答率が16%を超える問題があった。

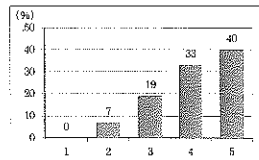
〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、数学Aにおいて4、5段階が71%であるのに対し、数学Bでは31%であり、5段階は2%とかなり落ち込んでいることから、伸びる生徒を更に伸ばす手立ての必要性がある。
- ・平行四辺形、ひし形など図形に関する問題の通過率が低い傾向がある。
- ・記述式で無解答率が28%を超える問題があった。

〔理科〕



〔理科〕



〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、4、5段階が64%であったが、1、2段階が20%いることから下位層の底上げの必要がある。
- ・生物的分野の通過率が比較的低かった。
- ・化学変化を原子や分子のモデルで説明する問題の無解答率が11%であった。

〈課題〉

- ・5段階の分布状況では、4、5段階が73%である。
- ・正答率が90%を超える問題がある一方、31%の問題がある。
- ・記述式の問題において無解答率が21%の問題があった。

【改善策】

- 今後、以下に示す事項において本町の学力向上施策の実施の重点として取り扱っていく。
- 校種の垣根を越えた授業参観を更に推進し、小中連携研修会等の機会を捉えて、学習内容における連携を深め、授業改善につなげる。
 - 家庭学習や自主学習(自学ノート)を推進し、学びに向かう力を身に付けるために、学びの場(学ぶ方法)の選択肢を増やしていく。
 - 特別支援教育の充実を図り、個に応じた指導の充実を更に図るとともに、上位層の更なる伸びを指導・支援していく。
 - 各学校における個別指導の時間の設定の把握と充実を支援する。
 - 単位時間内での「振り返り」と「習熟」を位置付けた授業改善を推進する。
 - 個別の学力シートを作成し、経年変化や領域毎の特徴などをつかみ、指導に活かすとともに、本人の自覚を促す。
 - また、以下の事項を管理職研修会や教務主任研修会で指導し、各学校で取り組ませる。
- 【小学校】(国語科)漢字や慣用句の確実な定着(語彙力の向上)と、記述を意識した授業改善
(算数科)他者から与えられた複数の資料から選択して課題解決を図る活動の充実、図形の要素や根拠などを説明する活動の充実
(理科)観察や実験の結果を、考察して分析したり生活場面へつなげたりモデル化したりすることを重視した授業改善
- 【中学校】(国語科)漢字や慣用句、古語の確実な定着(語彙力の向上)と、記述を意識した授業改善
(数学科)複数の資料の中から意図に合う資料を選択して、文を構成し説明する活動の充実
(理科)学習内容を他者に説明する活動の充実